（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

研究進捗状況報告書の概要

1　研究プロジェクト

学校法人名	明治大学	大学名	明治大学
研究プロジェクト名	日本古代学研究の世界的拠点形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2　研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

今回の研究目的は，明治大学所蔵の日本古代学研究資料群を活用し，明治大学だけしか実現できない新たな世界的研究拠点を展開するプロジェクト研究である。これまでの豊富な日本古代学の研究成果に基づくとともに，新たに民族学・法制史学の研究成果を踏まえ，日本古代学研究の世界的ハブの構築をめざす。明大所蔵の資料を文化資源化してデータベースを構築し，さらに古代出土文字データベース群を充実させて世界に発信して，「もの」（物資，技術，経済），「こと」（文字・律令・制度・都市），「こころ」（文芸・心性）の側面から日本古代学の国際的構築をめざす。その際，韓国・中国・ベトナムなどアジアの古代学資料群に目を向け，その特質を世界的視座から考察し，それらとの比較研究を通して日本古代学の特徴を析出する。文化資源としてのデータベースの構築と，それを基盤とする研究によって，日本古代学研究の国際的ハブとして，世界的研究拠点に育てていく。

〇計画の概要

平成 26 年度：　ウェブサイトの立ち上げ。目録作成用サーバーの導入。
①杉原荘介・岡正雄・井上光貞資料の資料整理・デジタル撮影
②除秘鈔・好太王碑拓本の釈文作成
③出土文字資料のデータベース化（既構築分の拡充）
④目録作成用システムの開発。および国内外資料調査・国際学術研究集会・紀要刊行・運営委員会年3回（以下毎年実施）。

平成 27 年度：　①②③の継続。目録作成，サーバーへの登録。

平成 28 年度：　①②③の補遺作成。目録公開用サーバーの導入。
公開用システムの開発。公開用サーバーへの登録，暫定公開。

平成 29 年度：　①②③のデータ修正。公開データの修正・活用化。

平成 30 年度：　研究の取りまとめ，および国際研究ハブの発展計画の具体化。

3　研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

〇研究プロジェクトの進捗状況

各研究プロジェクトの進捗は，テーマ3で若干の遅れがみられるが，おおむね順調である。

テーマ1【もの（物資・技術・経済）の研究】のうち，課題〔1〕日本古代学研究資料群の文化資源化では，杉原・岡・井上資料についてはそれぞれ担当の3チームをつくり，資料の整理・目録の

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

作成を行い，㈱ナカシャクリエイテブ社の支援を得ながら，デジタル撮影を行い，サーバーにデジタル画像を格納し，画像データと目録データのリンクによるデータ検索用システムのプロトタイプの開発を進め，これにより資料群ごとに設定した項目による検索と画像データの表示を可能とするデータベースシステムプロトタイプ版が完成した。

課題〔２〕ものの側面からの日本古代学の国際的研究基盤構築では，上記の作業と並行して検討・研究を進め，2014 年度に公開シンポジウム『明治大学の文化資源と岡正雄・杉原荘介・井上光貞』（＊研究成果 163：以下数字のみ），2015 年度には国際シンポジウム『Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship』（邦題：岡正雄の人類学的学問の形成過程＊167）を開催し，特に後者ではドイツ・オーストリア・韓国・日本の 9 名の研究者により岡正雄の学問形成過程の諸問題が議論され，2016 年に英文で報告書を刊行した。岡資料のうち，ウィーン大学に提出した学位論文（原文ドイツ語）が 2011 年に J.クライナー氏（ドイツ・ボン大学名誉教授）の編集・ご尽力でドイツ語版が刊行されたが，その邦訳を 2018 年度末に刊行するべく，クライナー氏および山田仁史氏(東北大学大学院文学研究科)・嶋内博愛（武蔵大学人文学部）・山田香織（香川大学地域連携戦略室）３名の研究協力を得て翻訳作業を進めている。また，杉原・井上資料とその意義については石川・吉村を中心に国際研究集会や『交響する古代Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ』(*97・103・113・164・168)で採りあげた。

古代東アジアにおける交易・交流 を解明する課題については，ポータブル型蛍光X線分析装置を設置して，日本とアジア各地の考古資料の理化学的な分析を進めた。考古資料は所蔵機関以外への移動に制約がかかるために携行できる分析機器による分析が有効である。中村が中心となり，この部門で研究実績のある藁科哲男（遺物材料研究所長／元京都大学原子炉実験所助手）・田村朋美（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員）・高野陽子(京都府埋蔵文化財調査研究センター)の３氏の協力を得て分析・研究を進めている。2015・16 年度は東京大学・岡山大学・京都府教育委員会所蔵の弥生・古墳時代の玉類，韓国・ベトナムの資料分析を行い，朝鮮半島や東アジアのデータとの比較検討を行って，優れた分析データを蓄積しつつある（*2・39・40・44・45・47・51・148・149・152・153・154・156）。

古代に東アジア地域間の政治的交渉 を把握する上で，古代印の研究は重要である。この課題については，石川が中心となり，「漢委奴國王」金印を取り上げて金属組成・尺度・鈕形・字形等，複眼的な検討を進めた（＊6～10・96・99～102・110・111）。2014～16 年度に岩手県立博物館・南京大学・南京博物館・六朝博物館・上海博物館・成都博物館で資料調査を行い，2016 年度に公開シンポジウム『ふたたび「漢委奴國王」金印を語る』（＊172）を開催し，最新の所見を公開しつつ，激しい議論を交わした。

日本古代学研究の国際化研究 における課題「欧米に於ける日本古代学研究」については，佐々木が中心となり，ＵＳＡにおける実情調査を行うとともに，『交響する古代Ⅵ・Ⅶ』（＊123・130・168・173）において欧米における取組と成果・課題を報告した。

テーマ2【こと（文字・律令・制度・都市）の研究】における文化資源化については，井上光貞資料（令集解の研究）のデジタル画像の電子媒体の整理を行い，「令集解の研究」と「その他資料」に2区分して，検索システムの開発中である。井上資料を活用するために，鷹司本令集解（本研究所作成済データベース）のほか，「官制関係文献目録」を関連付けて研究条件を整備する。後者については，暫定版の作成が終了し，公開に備えている。

墨書土器データベースの充実化・補訂 については，墨書土器研究文献目録のほか，科学研究費成果なども利用して，現在までに東北3県，関東7都県，中部7県（含山梨），近畿3府県，中国3県，四国4県，九州7県（合計３７都府県）のデータを公開している。墨書土器データベースは，日本で唯一のデータベースである。東日本大震災の宮城・福島県を含め，早急に都府県別のデータを完成させたい。ただし，集成年度に遠近があって整備する必要があるが，各地域の特徴を掌握するデータは集成することができた。

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

文字瓦のデータベースの補訂 については，ともに出土文字資料である上記の墨書土器（刻書土器を含む）に加えて，文字瓦のデータベース構築をかなり進展させることができた。これら出土文字資料に関しては，「全国墨書土器・刻書土器横断検索データベース」オンライン版（試行版）を構築しており，すでに全国各地の都道府県立埋蔵文化財調査センターで，出土した墨書土器等の釈読の際に活用されていることを確認している。

明治大学所蔵 好太王碑拓本 に関しては電子媒体化を完了しているが，写真・釈文と研究からなる学術書の出版を準備中である。

中央図書館所蔵 「除秘鈔」の釈読 は，研究協力員である東京大学史料編纂所田島公教授のもとでほぼ完成している。図書館とも協議して，公刊する方向で調整中である。「除秘鈔付」（仮称。いずれも孤本の写本）は，年中行事の新史料であり，釈読に向けて準備中である。

研究成果の公表に関しては，好太王碑関係 では，中国における本研究の拠点である中国社会科学院等と共同で，2014・2016 年に公開・非公開の研究会を明治大学と台湾師範大学で開催した。また，地域連携としては，熊本県と「鞠智城東京シンポジウム」を毎年開催しているほか，世界遺産『飛鳥・藤原』の登録推進をめざして奈良県橿原市・桜井市・明日香村，また「播磨国風土記」研究で兵庫県立考古博物館等と共催して研究を進めた ~~ている~~。また，総括的研究としては，日本古代国家の形成について蘇我氏の立場から吉村が『蘇我氏の古代』（＊72）の著作を刊行したほか，それぞれ論文発表と学会報告・講演をして，研究成果の発信に努めた（＊15～18・24～27・67・70・74・80～83・114・122・127・129・136～139・142・143・211～214）。

テーマ３【こころ（文芸・心性）の研究」】では，古代から中世における諸テクストを用いて，人々の心性を解明する研究を実施している。そのために，大きな二つの課題を設定した。

課題〔１〕１次・２次資料群の古代学上の活用 については，主に３点の研究を推進した。(1)「和歌，伝承，物語など各種文芸テクストが立ち上げる「こころ」の世界についての研究」，(2)「韓国，中国，ベトナムにおける古代関係諸資料の予備的調査と比較文学的読解」，(3)「明治大学所蔵資料のうち，心性に関する資料の文化資源化に向けての研究。心性研究に必要な資料の選定とデータベース化にむけての準備」である。

課題〔２〕総括的研究 については，古代における心性研究の総合化を行うため，プロジェクト参加者を中心に，研究集会を行うことを計画した。時代・ジャンルを越えて問題意識を共有し，古代心性研究の拠点を形成することが目的であるが，2016 年度まで個別研究の充実化に重点を置いて，その成果を国際学術集会『交響する古代Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ』（＊164・168・173）や学術論文として発表するにとどまり，独立した研究集会は実現できていない。しかし，現在，調整・連携を進めており，2017 年度中に実施する予定である。

〇研究成果について

テーマ１【「もの」（以下略）の研究】では，杉原・岡・井上資料のデジタル公開 の準備が順調に進んでおり，それと並行して３碩学の学術的評価の検討も進めている。杉原荘介については，戦後初期の 10 年間で，現在も日本を代表する考古学の学会組織である日本考古学協会の設立に際して強力に動いたことや，全国の大学等の考古学者が共同で遺跡調査を行うプロジェクトを先導するなど，考古学界の組織化に大きく貢献したことが明らかとなった（＊97・107・163）。岡正雄 に関しては，ドイツ圏と日本を横断して民族学研究の総合化と組織化に尽力したことが岡資料から一層明らかとなり，その成果は，国際シンポジウムで議論を行った（＊59・167）。しかし戦後初期に，岡の日本民族形成論は考古学・歴史学界の議論に大きく寄与しながらも，考古学・歴史学界との乖離も生んだという評価も可能である（＊103・168）。今後の日本古代学研究を展望する

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

意味から，こうした問題は真摯な探求が必要である。

蛍光X線分析 による 日本列島およびアジアにおける物資の流通 に関する研究では，ポータブル型機器の導入により，資料分析対象が大きく広がった。弥生後期後半にそれまでの北陸産碧玉の広域流通が北近畿への集中へ変化することや，ガラス製品の多量流通が顕在化し，それがインド・東南アジアから環東シナ海・黄海を通じて日本列島にもたらされたと考えられており，今回の分析でその探究の糸口が見えてきた（*2・39・44・45・47・51・148・149・152・153・154・156）。また，「漢委奴國王」金印研究 は，現在真贋論争の渦中にあるが，今回の複眼的研究により，江戸時代製品の可能性は天文学的に低いと断じることができた。さらに，より広範な中国古代印研究へと進展しつつある（＊6～10・96・99～102・110・111）。

テーマ2【「こと」（以下略）の研究】では，プロジェクトの進捗状況に記したように，井上光貞 資料（令集解の研究）のデジタル画像の収録が終了した。井上資料によって井上の研究・思考過程を具体的に跡付けることができ，官制関係文献目録とともに，公開すれば，日本古代の律令法研究と古代官僚制研究に，資するところがきわめて大きい。

また，日本で唯一の 墨書土器データベース の構築は，「横断検索データベース」オンライン版（試行版）を伴っていることもあり，出土文字資料の発掘調査に携わる全国の埋蔵文化財調査センター等において，実際に墨書土器等の釈読に活用されている。人文系の研究成果は本来実用性に乏しいといわれるが，本データベースは，国民の共有財産である埋蔵文化財の価値判断に利用されており，大きな研究成果ということができる（＊174・175）。

テーマ3【「こころ」（以下略）の研究】では，文芸テキストを通して古代の心性研究を行った。以下，3つの課題ごとに成果を記す。

（1）諸テクストによる「こころ」の世界の研究

①『万葉集』における大伴家持の心性表現の研究： 山崎が主に担当し，家持の体言止めの表現に託した心性を考察（＊84），また，家持の絶唱とも評される巻十九巻末の春愁歌の表現が意味することを追究した（＊31）。この成果は，『交響する古代Ｖ』（＊164）で報告し，論文化した（＊29）。類型的な表現研究としては，天平二年正月に大宰府で大伴旅人が主催した「梅花の宴」の〈場〉の実態を考察した（＊85）。また，『万葉集』本文については，従来は仙覚本系統諸本間の分析はほとんど行われていなかった。しかるに，複数回にわたる仙覚の校訂作業の存在に注目し，仙覚本系統同士を検証すると，仙覚自身の読みの展開を垣間見ることができることが判明した（＊30）。

『万葉集』本文について，2015 年度より萬葉集諸本本文のデータ入力を開始し，寛元本・文永三年本・文永十年本の3段階に大別される仙覚本本文の比較を容易にした。2017 年 3 月末現在の進捗状況は漢字本文について全巻入力を終了し，訓の異同の示し方の方針を決定した。2017 年度は訓について引き続き入力作業を実施し，同年度末にデータベースの完成を目指す。

②『源氏物語』など王朝物語からの心性世界の解明： 主に湯浅が担当し，『源氏物語』「蛍巻」に記される物語論を丁寧に読み込むことで，古代における物語の意義と価値を明らかにした。物語が人々にどのように読まれたか，また『源氏物語』のような物語テクストがいかに人々に影響を与えたかを，同時代の文化状況を視野に入れながら解明した。当該内容は『交響する古代Ｖ』で報告し（＊145・164），論文化した（＊33）。さらに『源氏物語』に描かれる皇統の研究を国際学術会議で発表（＊146），論文化（＊35）し，物語世界に描かれる皇統譜と歴史上のそれとを比較することで，当時の人々がどのような社会を期待し，また社会に翻弄されつつも自分の生き方を模索したかを考察した。この論文は，史上における立后と皇位継承との密接な関係が物語にも投影されていることを確認するとともに，物語に描かれる皇位継承のあり方が，物語成立時の社会

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

動向と連動して描かれている可能性を指摘する。同様に，史上の事件を投影させつつ，物語独自の立坊争いを描く『うつほ物語』の論理を明らかにする論考を学術誌に掲載した（＊36）。

③『平家物語』とその周辺資料を用いた古代心性研究 ： 主に牧野が担当し，『平家物語』とそれに関連する仏教儀礼テクストとの関連性について研究を行った。表白など仏教儀礼テクストは，これまでの文学研究では丁寧に読み込まれてこなかった。これに着目することで，儀礼の場とそこから生み出された心性が文芸テクスト（物語や和歌）に大きく浸透していることが判明した（＊22）。

④古事記の歌と散文の表現空間と沖縄県宮古島の神歌の表現構造の研究 ： 主に居駒が担当した。両者を貫く概念は歌の叙事である。叙事形式の神歌が村落祭祀の場で発生し機能する実態を調査し，神歌が三部構造になることを明らかにした。その神歌構造から古事記の歌の表現を読み解き，歌の叙事を通して歌と散文のあいだに生成される表現空間の解明を試みた。宮古島の祭祀については，2016 年度に写真展「宮古島の神々の世界」と公開講演会を開催した（＊169・170）。佐渡山安公氏の協力を得て，狩俣集落の祖神祭を中心とする祭祀と宮古島各地の祭祀の様子で構成した。これまで未公開の写真を提示した点に特色がある。これは，後継者の不在により深刻な事態を迎えている古層の祭祀を保存・記録し，地域の新たな未来へ貢献する社会的意義も合わせつ。同時に，宮古島を見つめることで，「琉球」を相対化する，もうひとつのオキナワ（琉球とは異なる宮古島独自の祭祀・神歌の世界）の姿を鮮明に浮かび上がらせた。それは古代の心性の一面を継承するものである。

（2）韓国，中国，ベトナムにおける古代関係諸資料の予備的調査と比較文学的読解

①日本における古代の「こころ」の性質を東アジアという視座から比較研究するために，韓国漢文小説の研究を進めている。月１回のペースで研究会を開催し，いくつかの作品について，訓読文と訳文を作成した。2017 年度には，研究集会を開いて成果を世に問うとともに，韓国の研究機関に翻訳出版助成金を申請し，出版を目指す。この事業については，日向一雅元教授と鄭雨峰客員教授の協力を得て推進している。

②ベトナムにおける古代関係諸資料の予備的調査を行った。牧野らが 2016 年８月にハノイの漢喃研究院で所蔵資料目録を閲覧し，日本古代の特質を東アジアの視点から考察するのに有益な資料があるかを点検した。また同研究院のグエン・テイ・オワイン准教授と面会し，今後の調査への協力を要請し，共同研究の可能性について話し合った。

（3）明治大学所蔵資料のうち心性に関する資料の文化資源化に向けての研究

①『源氏物語』の講義録である『源氏物語聞録』（江戸時代）全九冊の翻刻修正作業を行い，2017 年度末に全九冊の解題・翻刻をテキスト化（PDF 化）し，インターネットに公開した。

②『源氏物語』の注釈書『花鳥芳囀』について，デジタル・テキスト化に向けて翻刻作業と解読を行った。ほとんど先行研究のない資料を文化資源化することで，物語による「こころ」世界の解明の進展が期待できる。成果は『古代学研究紀要』23 号(2015.11.18 発行)に掲載した。今後は解題・翻刻についてテキスト化し，写本の写真とともに，インターネット上で公開する予定である。

③逸題の資料（「無名」）を新たに購入し，解読作業を進めた。物語の裏には源氏物語供養に関する資料が書写されており，物語テキストが，人々の「こころ」にいかなる影響を与えたか，解明する手掛かりを得た。逸題物語１巻は，解読作業を進めた結果，木下長嘯子の「うなゐ松」と判明した。若くして亡くなった娘に対する追悼の文章が『源氏物語』を踏まえて書かれており，『源氏物語』が人間の感じ方を左右する力を持つことが分かった。その紙背には「源氏物語表白」が書写される。これは院政期の文化状況の中で読み解くことができることを示す。その研究成果を『交響する古代Ⅵ・Ⅶ』で発表した（＊132・168・173）。源氏表白に関する研究文献一覧も作成した。

（様式１）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

本文・研究と合わせて，2017 年度中に成果をデータベースとして公表する予定である。
④2016 年度に新たに『もんじゅの本地』『三世恋物語』を選定・購入 した。いずれも古代における「こころ」の問題を，宗教の側面から明らかにできる可能性のある資料である。他に存在が知られていない写本であり，今後至急，解読・研究を進める予定である。

（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書

1　学校法人名　明治大学　　2　大学名　明治大学

3　研究組織名　日本古代学研究所

4　プロジェクト所在地　東京都千代田区神田駿河台1－1

5　研究プロジェクト名　日本古代学研究の世界的拠点形成

6　研究観点　研究拠点を形成する研究

7　研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
石川　日出志	文学部	教授

8　プロジェクト参加研究者数　13　名

9　該当審査区分　理工・情報　生物・医歯　人文・社会

10　研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
石川　日出志	文学部・教授	日本列島初期農耕社会の地域性／杉原荘介・岡正雄資料の文化資源化（テーマ1）	研究代表／テーマ1「もの」（物資・技術・経済）の研究－統括 弥生時代の物資・技術・集団
加藤　友康	大学院文学研究科・特任教授	平安時代貴族社会の日記・儀式書史料の文化資源化	テーマ1「もの」（物資・技術・経済）の研究－文化資源化担当／テーマ2「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究担当 平安時代の儀礼・都市
吉村　武彦	名誉教授	奈良時代の文字使用と律令法／井上光貞令集解関係資料・墨書土器データベース化	プロジェクトマネージャー／テーマ2「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究－統括 統治構造と律令法の研究
佐々木　憲一	文学部・教授	古墳時代の中央と周縁 日本古代学研究の国際化	テーマ1「もの」（物資・技術・経済）の研究担当 都市・国家と地方支配
牧野　淳司	文学部・准	東アジアから見た日本の物語	テーマ3「こころ」（文芸・

（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

	教授	と説話／除秘鈔紙背文書の文化資源化	心性）の研究統括 物語・説話を通じた心性の研究
井上　和人	大学院文学研究科・特任教授	中華帝国周縁国家の古代都城の展開過程－出土建築素材論を視野に入れて	テーマ2「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究担当 古代都城と出土資料論
山﨑　健司	文学部・教授	文学作品の文字使用と表現／萬葉集諸本本文の文化資源化	テーマ3「こころ」（文芸・心性）の研究担当 古代文芸の生成と心性の解明
神野志　隆光	前大学院文学研究科・特任教授	漢字世界としての古代　日本列島における文芸－神話・歴史・歌の発見－	テーマ3「こころ」（文芸・心性）の研究担当 古代文芸の生成と変容
湯淺　幸代	文学部・専任講師	王朝物語の構成要素／源氏物語の注釈・講義録の文化資源化	テーマ3「こころ」（文芸・心性）の研究担当 物語と儀礼心性
居駒　永幸	経営学部・教授	日本古代文学と琉球文学の発生／琉球地方旧記類と口承神歌の資料保存	テーマ3「こころ」（文芸・心性）の研究担当 口頭伝承と心性
中村　大介	埼玉大学教養学部・准教授	ユーラシアにおける交易網の復元と技術移転／金属器及び玉類の分析と文化資源化	テーマ1「もの」（物資・技術・経済）の研究担当 東アジアにおける物資と技術の移動
山路　直充	市立市川考古博物館・学芸員	製品への記銘からみた生産と負担／記銘製品としての文字瓦の文化資源化	テーマ1「もの」（物資・技術・経済）の研究・2「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究担当 古代の瓦生産と文字
川尻　秋生	早稲田大学文学学術院・教授	平安時代仏教の研究／僧伝史料の文化資源化	テーマ2「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究・テーマ3「こころ」（文芸・心性）の研究担当 文芸資料と平安時代論

＜研究者の変更状況（研究代表者を含む）＞

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
テーマ2	文学部・教授	吉村　武彦	プロジェクトマネージャー テーマ2「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究リーダー

（変更の時期：平成28年3月31日）

（様式１）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学部・教授	明治大学名誉教授	吉村　武彦	プロジェクトリーダー テーマ2「こと」(文字・律令・制度・都市）の研究リーダー

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
テーマ3	大学院文学研究科・特任教授	神野志　隆光	テーマ3「こころ」（文芸・心性）の研究担当

（変更の時期：平成28年3月31日）

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大学院文学研究科・特任教授	（退職）	神野志　隆光	（退任）

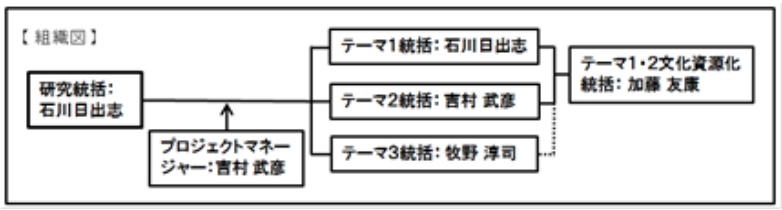
１１　研究進捗状況（※　5枚以内で作成 ）

（１）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究の目的は明治大学が 10 数年来継続してきた学際的・国際的視野に立つ日本古代学研究に立脚し，本学所蔵の研究資料群（戦後日本考古学界を組織化した杉原荘介，日本民族学の創始者である岡正雄，日本律令学を主導した井上光貞の資料）を活用するとともに，新たに民族学・法制史学研究も踏まえて，日本古代学研究の拡充を図る。上記の研究資料群を文化資源化し，従来から公開中の日本古代出土資料データベースをさらに充実させて世界に発信し，（1）「もの」（物資，技術，経済），（2）「こと」（文字・律令・制度・都市），（3）「こころ」（文芸・心性）の3つのテーマ・側面から日本古代学研究の国際的構築を目指す。その際，韓国・中国・ベトナムなどアジアの古代学資料群にも目を向け，その特質を考察し，それらとの比較研究を通して日本古代学の特徴を析出する。文化資源としてのデータベースの構築と，それを基盤とする研究によって，日本古代学研究の世界的研究拠点を構築する。

（２）研究組織

上記の研究目的を実現するために，既存の日本古代学研究所（明治大学研究クラスター）を核として，明治大学専任教員及び学部研究機関の研究者で上記の3研究部門（テーマ１～３）を構成する。また，３部門協同で，日本古代学研究資料群の文化資源化―研究基礎資料の収集・整理・保存および活用のためのデータベース化―を推進する。各テーマ・部門ごとに，複数の研究課題を設けて，国内外の資料群調査，およびその比較文化的研究を推進する。さらに，各テーマ・課題に関する国内外の考古学・歴史学・文学・民族学研究者との連携・研究協力を得て研究を進める。こうした研究組織を構築し，躍動することを通して本研究の目的を着実に実現する。本研究の組織体制は次のとおりである。



法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

（所属・職格）　（氏名）　（担当テーマ）

1）明治大学文学部・教授　石川日出志：テーマ1（研究統括，テーマ1統括）
2）明治大学大学院・特任教授　加藤　友康　：テーマ1・2（テーマ1・2文化資源化統括）
3）明治大学・名誉教授（2016 年 5 月～）吉村　武彦　：テーマ1・2（プロジェクトマネージャー，テーマ2統括）
4）明治大学文学部・教授　佐々木憲一　：　テーマ1・2
5）明治大学文学部・教授　牧野　淳司　：　テーマ3（テーマ3統括）
6）明治大学大学院・特任教授　井上　和人　：　テーマ2
7）明治大学大学院・特任教授　神野志隆光　：　テーマ3（2015 年度退任）
8）明治大学文学部・教授　山崎　健司　：　テーマ3
9）明治大学文学部・専任講師　湯浅　幸代　：　テーマ3
10）明治大学経営学部・教授　居駒　永幸：　テーマ３
11）埼玉大学教養学部・准教授　中村　大介：　テーマ１
12）市川市立市川考古博物館　山路　直充：　テーマ１・２
13）早稲田大学文学学術院・教授　川尻　秋生　：　テーマ2・3

なお，本研究プロジェクトの推進のため，各テーマ内の課題を特定して研究協力を得た。

①テーマ1・岡正雄研究：ヨーゼフ・クライナー氏（ドイツ・ボン大学名誉教授）
②テーマ1・岡正雄ドイツ語博士論文翻訳：山田仁史氏(東北大学大学院文学研究科)・嶋内博愛（武蔵大学人文学部）・山田香織（香川大学地域連携戦略室）
③テーマ1・石材分析：藁科哲男（遺物材料研究所長／元京都大学原子炉実験所助手）・田村朋美（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員）・高野陽子(京都府埋蔵文化財調査研究センター)
④テーマ2・墨書土器データベースの構築：市大樹（大阪大学准教授）・柴田博子(宮崎産業大学教授)・荒木志伸(山形大学准教授)
⑤テーマ3・源氏物語研究：日向一雅（明治大学文学部元教授）

また，また恒常的に研究支援員1～3名，RA3 名を任用して研究サポートを行い，大学院生 3～15 名を活用して資料整理やデータ管理，シンポジウムの運営に当たった。当該研究前身の大型研究でPDもしくは RA であった者が、現研究分担者として2名在籍している。

（3）研究施設・設備等

明治大学・グローバルフロント8階408B・C・D・Kの4室，計150㎡を使用している。各部屋の整備状況は以下の通り。

B室には，エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 OURSTEX100FA（アワーズテック社製，2014 年度設置），ノート PC，A3 対応コピー・スキャナー複合機を備え，主に岡資料班・杉原資料班が週4日（@6時間／日），資料の整理作業およびデータ入力，データベース構築作業をしている。蛍光X線装置はポータブル型で，学外機関に携行して資料測定を行った。C室には，デスクトップ PC:6台（Mac1台含む）・ノート PC３台，スキャナー（フラットベッドタイプ３台）・ブックタイプ１台，レーザープリンタ２台，プリンタ・スキャナー複合機１台，サーバー１台（墨書土器画像データベース用）を備え，主に墨書土器データベース班が使用。研究連絡など事務も当室で行い，週5日使用する。D室は大型研究データベース用入力 PC＋サーバー1台で，井上資料班が週2－3日（@6時間／日）作業している。サーバーは 2014 年度に設置し，2015・2016 年度にデジタル史料を搭載し，管理データの作成作業を行った。K室はノート PC3台，コピー機１台を備え，主に翻刻データベース，万葉集ほかテキストデータ入力作業を週３日（@６時間／日）行っている。ノート PC は４室合計 11 台。基礎データ入力，画像加工作業に使用している。

グローバルフロント地下 1 階・分析機器室も共用スペースとして使用しており，

（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

SEM 顕微鏡（3Ｄリアルサーフェスビュー顕微鏡 VE-8800：キーエンス社製），光学式顕微鏡，Ａ３対応フラットベッドスキャナを備え，植物圧痕の分析者１名が週１～２日（@５時間／日）使用している。

（4）進捗状況・研究成果等　※下記，13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞

1）システム開発　〔達成度90％〕

①杉原荘介・岡正雄・井上光貞資料の目録作成による整理とそれにもとづきデジタル撮影を進め（杉原資料：画像 3,856 コマ・岡資料 3,462 コマ・井上資料 10,281 コマ），サーバーへ画像デジタルデータを格納した。②古代学検索データベースシステム(仮称)のシステム設計を進め，杉原・岡・井上資料ごとの画像データと目録データのリンクによるデータ検索用システムのプロトタイプの開発を行なった。これにより資料群ごとに設定した項目による検索と画像データの表示を可能とするデータベースシステムプロトタイプ版が完成した。

2）文化資源化　〔達成度90％〕

テーマ1・2では，井上『令集解』関係資料のデジタル撮影を完了し，文化資源として活用できる条件を整えた。杉原・岡資料の文化資源化も順調に進捗した。すでに公開中の墨書土器データベース・文献目録については充実を図っており，順調である（＊174・175）。

テーマ3に関しては，萬葉集諸本本文のデータ入力を開始し，仙覚本本文の比較が容易にできるようにした。2017 年 3 月末現在，漢字本文の全巻入力を終了し訓の異同の示し方の方針を決定した。17 年度に引き続き入力作業を行い，同年度末にデータベースを完成する。

『源氏物語』の講義録である『源氏物語聞録』（江戸時代）全9冊の翻刻修正作業を行い，2017 年度末に，全9冊の解題・翻刻をテキスト化してインターネット公開した（＊176）。さらに『源氏物語』の注釈書『花鳥芳囀』（江戸時代）を，デジタル・テキスト化に向けて 2016 年度までに翻刻作業と解読を行った。従来ほとんど研究のない資料である。写本の撮影は終了し，解題・翻刻のテキストデータを写本の画像とともに，2017 年度中にデジタル公開する。

また，新たに購入した逸題の資料（「無名」）の解読作業を進めた。裏には源氏物語供養に関する書写があり，物語テクストが人々の「こころ」に与える影響を解明する手掛かりを得た。逸題物語1巻が木下長嘯子の「うなゐ松」と判明した。源氏表白に関する研究文献一覧も作成した。本文・研究と合わせて，2017 年度中に成果をデータベースとして公表する。

3）杉原・岡・井上3氏の古代学研究の検討　〔達成度85％〕

上記システム開発と併行して資料の検討と3氏の日本古代学研究への貢献の在り方の検討を進めている。杉原資料に関しては，博物館所蔵資料が多数に上り，資料整理が完了していない（70％終了）。杉原資料により，戦後初期の日本考古学界の再編動向がよく理解でき（＊97・107），岡資料により，戦前～戦後初期における民族学研究の日欧協同の実相が把握され（＊59・107・167），井上資料により律令研究の過程が明かになった（＊113）。

4）各テーマ内の研究課題　〔達成度90％〕

テーマ1の課題「日本列島およびアジアにおける物資の流通」では，弥生時代後期後半に日本海側の広域物資流通が北近畿に拠点を置くようになる点や，朝鮮半島から東南アジアに至る流通機構がつかめた（*2・39・44・45・47・51・148・149・152・153・154・156）。「漢委奴國王」金印の複眼的な資料研を展開し，中国古印研究の刷新にも貢献した（＊6～10・96・99～102・110・111）。「日本古代学研究の国際化研究」については欧米の日本古代学資料とその研究状況を把握した（＊123・130・168・173）。テーマ2では，特墨書土器データの更新に顕著な成果を上げた（＊174・175）。テーマ3の「諸テクストによる「こころ」の世界の研究」では『万葉集』における大伴家持（＊29～31・84・85・164），『源氏物語:など王朝物語』（*33～36・145・146・164），『平家物語』周辺資料（*22），宮古島神歌（＊169・170）の研究を推進した。

5）研究成果の発信　〔達成度90％〕

研究成果は，毎年度，国際学術研究会『交響する古代』Ⅴ～Ⅶ（＊164・168・173）を開催して，3テーマのスタッフおよび国内外の日本古代学研究者による研究発表と討議を重ねたほか，2014 年度に公開シンポジウム『明治大学の文化資源と岡正雄・杉原荘介・井上光貞』（＊163），2015 年

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

度に国際シンポジウム『Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship』(＊167)，公開研究会『伊勢神宮・出雲大社の遷宮をめぐって』(＊165)，第3回古代武蔵国シンポジウム『武蔵国の国府と地域社会』(＊166)，2016 年度に公開講演会「宮古島の神々の世界－神と人と海・森－」(＊170)，公開シンポジウム『ふたたび「漢委奴國王」金印を語る』(＊172)，公開シンポジウム『『播磨國風土記』研究の現代的意義』(＊171)，写真展『宮古島の神々の世界』(＊169)を開催した。そのすべては事前にHP(http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_info.html明治大学日本古代学研究所)およびチラシ・ポスターで周知を図り，当日配布資料を作成し，『Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship』については報告書を英文で刊行した(＊59)。

また，上記HPで公開中の「全国墨書・国書土器，文字瓦，横断検索データベース」(オンライン検索 行版)は更新を重ねており，全国の埋蔵文化財調査研究組織が活用している。

＜特に優れた研究成果＞

テーマ1では，杉原資料が戦後初期の考古学界の動向を知る未公表資料を含み(＊97・107・163)，岡資料は戦前・戦後における日本とドイツ圏との民族学分野での学術交流の実相を知る格好の資料群であり(＊59・103・163・167)，井上資料は日本古代史における律令学の体系化の過程(＊113・163)を知る上で貴重である。それら資料のデジタル公開の準備が整い，日本古代学研究の基本データに基づく国際研究が可能な条件が整備されつつある。特に，岡正雄に関しては 1982 年に岡の没後初の試みとして 2015 年度に国際シンポジウムを開催し英文で報告書を発行した(＊59・167)。日本民族学の形成過程に関する優れた実践例として，欧米研究者からの好評を得ている(2017 年度に Review 掲載予定)。

テーマ2では，井上光貞『令集解』関係資料の文化資源化が，基本的に終了した。井上資料のデータベースとの関係で，職員令の官司機構に対する研究文献データベース(暫定版)を活用すれば，古代日本における官司機構の研究に大きく寄与することになる。また，人文研究では，「社会的実用性」に関して学問の性格上，困難を伴うことが多い。しかしながら，「全国墨書・国書土器，文字瓦，横断検索データベース」(オンライン検索 試行版)の公開は，単なる社会への還元にとどまらず，すでに各都府県の埋蔵文化財調査センター等において，出土した墨書土器・文字瓦を釈読する際のツールとして活用されている。実用性をもった情報発信として，考古学・古代史学界では研究に寄与している(＊174・175)。

テーマ3で購入した資料群は，他に存在が知られていないものや，写本の数が少なく公開されていないものが多い。これらの翻刻・紹介を経て，デジタル化・インターネット公開は，大いに価値がある。2017 年度以降も，引き続き解読・研究を進め，その成果を発信する。

＜問題点とその克服方法＞

1） システム開発

古代学検索データベースシステム(仮称)のシステムはまだプロトタイプ版であり，㈱ナカシャクリエイテブ社の支援を受けてすでに古代学研究所内での運用・実証実験にもとづいてシステムの補強と修正を重ねている。インターネットを介した検索と資料の画像表示を可能とするデータベースとして完成させ公開をはかる。

2)文化資源化

文化資源化した井上光貞『令集解』関係資料データベースの活用に関して，十分な検索システムを構築することができていない。井上資料は井上自身の編集を経ているために，杉原・岡資料との明確な差異があるためである。2017 年度の最重要課題とし，年度初めに杉原・岡資料のシステムとの調整を行い，すでに改善を図った。

3)日本古代学研究所ホームページでの英語による発信

日本古代学研究は，日本語を基盤として初めて研究実践が可能である。しかしながら，日本古代学の魅力を世界に発信して一層の関心を醸成・展開を図るには，本プロジェクトの取組みを英語等で発信することが必須である。現在，英語ヴァージョンを準備しており，2017 年度中に実現を図る。

4)共同研究の推進

テーマ3の「古代心性研究の拠点を形成する」という目的が，2016 年度まで個別研究の充実に重点を置き，その成果を国際学術集会『交響する古代Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ』で発表するにとどまり，独立した研究集

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

会は実現できていない。しかし，すでに調整・連携を進めており，2017 年 11 月実施に向けて準備中である。

5）運営体制の強化

研究の進捗は90％と自己評価するが，今回の点検評価により，本プロジェクトの運営強化が必要と判断し，運営会議を年3回（＋随時）から毎月開催に変更し，日程を決定した。

＜研究成果の副次的効果（実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。）＞

人文系プロジェクトのため，特許の取得はない。しかし，すでに公開している出土文字資料データベースが全国の埋蔵文化財調査研究組織に活用されているように，本プロジェクトが推進する文化資源化は日本国内のみならず世界の日本古代学研究者および市民の研究推進に大いに貢献すると期待される。

＜今後の研究方針＞

5か年計画の 3 年が経過した。杉原・岡・井上資料を含む古代学検索データベースシステム(仮称)は，現在はまだプロトタイプ版であり，運用・実証実験を経てシステムの補強・修正を行ない，インターネットで検索と資料の画像を表示するデータベースとして完成・公開することが最優先事項である。そして，これまで取り組んできた諸課題に関する調査・研究を継続・展開することはもちろん，それらを相互に関連づけながら「日本古代学研究の国際化」を前面に打ち出す取組みを行う。そのためには，単に「日本古代学」に収束するのではなく，東アジア世界のなかに古代日本を位置づけることが必要であり，「もの」・「こと」・「こころ」の3テーマごと，および横断する取組み（調査・研究・議論）を実践する。これをもとに古代学検索データベースシステムの完成後の活用計画を策定することによって，本ステージの日本古代学研究の国際研究拠点＜形成＞から次のステージである＜その運用・展開＞へと進める。

＜今後期待される研究成果＞

どの学問分野も，近年，研究の深化とともに細分化が著しく，研究の「タコツボ化」が進行している。また，欧米の大学では，中国学の大幅な拡大と反比例するように，日本学および日本古代学関連講座の縮小も危惧されるようになっている。本プロジェクトの各テーマ，およびその中の諸課題に関する研究の深化は当然追究するものの，それらを相互に関連づけることによって「アジアのなかの日本古代学」として再構築し，情報公開により新たな魅力を発信し，国際連携の推進を図ることが，本プロジェクトの核心的目標である。欧米の研究組織・研究者との連携と協同の蓄積も重要である。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞

全体のプロジェクトの進捗管理・自己点検・改善活動を確実に行うため，研究代表者に加えて 2014 年 7 月にプロジェクトマネージャーを設けた（担当吉村武彦）。また，明治大学研究企画推進会議（研究支援事業に係る専門部会）で研究代表者から提出された，①研究達成度・自己点検表，②本事業全体研究計画・ロードマップ，③提出前の本事業に係る中間評価（研究進捗状況報告書）または事後評価（研究成果報告書概要），を各年度に確認・点検を行い，研究代表者にその結果をフィードバックしている。なお，上記①～③については，本事業学内選考および採択後の進捗管理体制に関する内規を制定し，具体的な取り組みは本学 HP に掲載している。

http://ww.meiji.ac.jp/research/promote/index.html プロジェクト内でも，毎年3回運営委員会を開催して，プロジェクトの進捗状況の点検・評価を行っている。

＜外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況＞

学内・学外研究者からなる本プロジェクト評価・検証委員会を組織して，第三者評価を行う予定であったが遅延しており，2017 年度に実施する。また，公開シンポジウム・国際研究集会等ごとの点検評価を行うため上記書式を定め，逐次点検・評価を行えるよう改善する。

（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

12　キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

（1）日本古代学　（2）文化資源化　（3）出土文字資料
（4）日本民族学　（5）日本考古学　（6）文芸テクスト
（7）比較文学　（8）令集解

13　研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）
上記，11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

＜雑誌論文＞

（＊印の数字はテーマ1・2・3の別を表わす）
〔プロジェクト〕
1)＊3『古代学研究所紀要』第 23 号(2015 年 3 月発行)
沈相六（日本語訳：松永悦枝／監修：中村大介）
「（翻訳）百済泗沘都城出土の文字遺物」(『木簡と文字』第 11 号掲載／日本語訳)
賀雲翱「中国出土 3-6 世紀文字資料概観（中文）」
湯淺幸代「『源氏物語』蛍巻の物語論―物語と史書との関わりを中心に―」
湯淺幸代・関恭平・小滝真弓
「（翻刻）「明治大学日本古代学研究所」所蔵　土肥経平『花鳥芳囀』解題・翻刻」
・公開研究会記録：「漢委奴國王」金印研究の現在」レジュメ(2012 年 12 月 15 日開催)
2)＊1『古代学研究所紀要』第 24 号(2016 年 3 月発行)
中村大介「環日本海における石製装身具の変遷」
藁科哲男・中村大介「ポータブル蛍光 X 線分析装置を用いた碧玉製玉類の分析」
佐々木憲一・田中裕・岩田薫・阿部芳郎・小野寺洋介・尾崎裕妃・木村翔・土井翔平
「茨城県小美玉市　塚山古墳 2010 年度発掘調査報告」
〔石川日出志〕
3) 大塚初重・工楽善通・熊野正也・安蒜政雄・石川日出志（司会）「座談会：明大考古学の歩みを語る」『考古学集刊』第 10 号，65-98 頁，2014 年 5 月 18 日．（査読無）
4) 石川日出志「弥生時代後期・佐久市北一本柳遺跡出土鉄斧の歴史的意義」『佐久考古学通信』No.113，13-15 頁，2014 年 8 月 28 日．（査読無）
5) 石川日出志「日本列島の弥生文化と南東北」『うきたむ考古』第 19 号，1-27 頁，うきたむ考古の会，　2015 年 3 月．（査読無）
6)＊1石川日出志「「漢委奴國王」金印的再検討」『大衆考古』2015.05（総第 023 期），江蘇人民出版社有限公司，51-57 頁，2015 年 5 月．（査読無）
7)＊1石川日出志「「漢委奴國王」金印と漢代尺・金属組成の問題」『考古学集刊』第 11 号，明治大学考古学研究室，93-103 頁，2015 年 5 月 22 日．（査読無）
8)＊1 石川日出志「金印と弥生時代研究―問題提起にかえて―」『古代学研究所紀要』第 23 号，明治大学日本古代学研究所，99-109 頁，2015 年 11 月 18 日．（査読無）
9)＊1 鈴木勉・高倉洋彰・大塚紀宜・石川日出志（司会）「公開研究会＜「漢委奴國王」金印研究の現在＞：質疑応答」『古代学研究所紀要』第 23 号，明治大学日本古代学研究所，145-153 頁，　2015 年 11 月 18 日．（査読無）
10)＊1 石川日出志「新説！　私はこう考える①　金印真贋論争は「本物」で決着した！」『歴史リアル　新説・新発見の日本史』，洋泉社，12-17 頁，2016 年 4 月 4 日．（査読無）
11) 石川日出志 2016「特別講演：邪馬台国を再考する」（「むなかた電子博物館」紀要編集委員会（編）『むなかた電子博物館紀要』第 7 号，16-23 頁，2016 年 3 月 31 日．（査読無）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

12) 石川日出志「歴史学における弥生文化論の位置」『季刊考古学』第 138 号, 67-70 頁, 2017 年 2 月 1 日.（査読無）

〔加藤　友康〕

13) 加藤友康「日本古代社会における交通と地方社会―「もの」と「こと」の二つの流れに即して―」『飯田市歴史研究所　年報』12, 8－22 頁, 2014 年 8 月.（査読無）

14) 加藤友康「日本の古代道路と地域社会」『人と国土 21』40-5, 47－51 頁, 2015 年 1 月.（査読無）

15)＊2加藤友康「吉田晶氏と日本古代社会論―『日本古代村落史序説』・村落首長制論を中心に―」『歴史科学』220・221, 120－132 頁, 2015 年 5 月.（査読無）

〔吉村　武彦〕

16)＊2 吉村武彦「飛鳥から藤原京, 平城京へ」『地域デザイン』4, 237-242 頁, 2014 年 9 月.（査読無）

17)＊2 吉村武彦「東アジアにおける日本古代国家形成の諸問題（覚書）」『日本古代学』8, 明治大学日本古代学教育・研究センター, 2016 年 3 月.（査読無）

18)＊2 吉村武彦「大宝田令の復元と『日本書紀』」『明治大学人文科学研究所紀要』80, 明治大学人文科学研究所, 2017 年 3 月.（査読無）

〔佐々木憲一〕

19) 佐々木憲一 ・小野寺洋介・尾崎裕妃「茨城県石岡市佐自塚古墳再測量調査報告」『考古学集刊』第 11 号, 明治大学文学部考古学研究室, 105-119 頁, 2015 年 5 月,（査読無）

20) 佐々木憲一 ・田中裕・岩田薫・阿部芳郎・小野寺洋介・尾崎裕妃・木村翔・土井翔平「茨城県小美玉市塚山古墳 2010 年度発掘調査報告」『古代学研究所紀要』第 24 号, 佐々木執筆 pp.43－77, 明治大学古代学研究所, 2016 年 3 月.（査読無）

21) 佐々木憲一 ・小野寺洋介・佐藤リディア・九重明大・尾崎裕妃「小美玉市地蔵塚古墳測量調査報告」『小美玉市史料館報』Vol. 10, pp. 115-127.小美玉市教育委員会, 2016 年 3 月.（査読無）

〔牧野　淳司〕

22)＊3牧野淳司「表白論の射程―寺社文化圏と世俗社会との交錯」『アジア遊学』174 号, 128-139 頁, , 2014 年 7 月.（査読無）

23)＊3 牧野淳司「春草と秋風―「恨賦」による哀傷表現と法会の場―」『文芸研究』126 号, 179-189 頁, 2015 年 3 月.（査読有）

〔井上　和人〕

24)＊2井上和人「王宮と都城」条里制・古代都市研究会編『日本古代の都市と条里』吉川弘文館, 2015 年 4 月,（査読無）

25)＊2井上和人「7 世紀における都城・王宮の展開と日本古代国家の構築」『日本の歴史考古学』同成社, 2016 年 2 月,（査読無）

26)＊2井上和人「唐長安城（隋大興城）形制規格復元試論」『条里制・古代都市研究』第 32 号, 51－72 頁, 2017 年3月.（査読有）

27)＊2井上和人「日本列島古代山城の軍略と王宮・都城」『日本古代学』第９号, １－33 頁, 2017 年3月.（査読有）

〔神野志隆光〕

28) 神野志隆光「その後の日本書紀―「年代紀」の展開」『京都語文』第 24 号, 佛教大学国語国文学会, 30－109 頁, 2016 年 12 月 20 日,（査読無）

〔山崎　健司〕

29)＊3 山﨑健司「萬葉歌の類型的表現における表現性」『文芸研究』第１２６号, 明治大学文芸研究会, 39－50 頁, 2015 年 3 月.（査読有）

30)＊3 山﨑健司「仙覚本における「読み」の展開－文永三年本と文永十年本の異同をめぐって－」『萬葉』第２２１号, 萬葉学会, 24-43 頁, 2016 年 3 月.（査読有）

（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

31)＊3山﨑健司「うら悲しき景―大伴家持の春愁歌の表現をめぐって―」『国語と国文学』第 94 巻第 4 号, 2017 年 4 月.（査読有）

〔湯浅　幸代〕

32) 湯淺幸代「玉鬘の筑紫流離―「后がね」への道筋―」単著『文芸研究』126 号, 明治大学文学部, 119-133 頁, 2015 年 3 月.（査読有）

33)＊3湯淺幸代「『源氏物語』蛍巻の物語論―物語と史書との関わりを中心に―」単著『古代学研究所紀要』23, 明治大学日本古代学研究所, 1-10 頁, 2015 年 11 月.（査読無）

34)＊3湯淺幸代 ・関恭平・小滝真弓 「「明治大学日本古代学研究所」所蔵土肥経平『花鳥芳囀』解題・翻刻」『古代学研究所紀要』23, 明治大学日本古代学研究所, 13-45 頁, 2015 年 11 月.（査読無）

35)＊3湯淺幸代「『源氏物語』の立后と皇位継承―史上の立后・立坊例から宇治十帖の世界へ―」『中古文学』第 98 号, 中古文学会, 75-89 頁, 2016 年 12 月.（査読有）

36)＊3湯淺幸代「『うつほ物語』国譲巻に見る氏族の論理―「かぐや姫」の見定める「心ざし」と『九条右丞相遺誡』の「一心同志」から―」『日本文学』第 66 巻第 2 号, 日本文学協会, 1-12 頁, 2017 年 2 月.（査読有）

37) 湯淺幸代「普遍性と親和性―古典文学を学ぶこと―」『文芸研究』132 号, 明治大学文学部, 97-102 頁, 2017 年 3 月.（査読無）

〔居駒　永幸〕

38) 居駒永幸「宮古島狩俣のウヤガン祭マトガヤーと神歌―「マトガヤー」と「タラマウプツカサ」―」『明治大学教養論集』第 516 号, 明治大学, 45-69 頁, 2016 年 3 月.（査読有）

〔中村　大介〕

39)＊1 中村大介 ・藁科哲男・田村朋美・小泉裕司 「玉類の流通と芝ヶ原古墳」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 50 巻第 1 号, 121-134 頁, 2014 年 9 月.（査読無）

40)＊1中村大介「楽浪郡以南における鉄とガラスの流通と技術移転」『物質文化』95 号, 33-48 頁, 2015 年 3 月.（査読有）

41) 中村大介 ・魚津知克・後藤明「特集にあたって：日本列島をとりまく海」『物質文化』95 号, 1-3 頁, 2015 年 3 月.（査読有）

42) 中村大介「朝鮮半島における周溝墓の発展」『考古学ジャーナル』, 2015, 5-8 頁. 2015 年 9 月号.（査読無）

43) 中村大介「朝鮮半島における石器から鉄器への転換」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 51 巻第 1 号, 97-112 頁, 2015 年 9 月.（査読無）

44)＊1藁科哲男・中村大介「ポータブル蛍光Ｘ線分析装置を用いた碧玉製玉類の分析」『古代学研究所紀要』第 24 号, 25-42 頁, 2016 年 3 月.（査読無）

45)＊1中村大介「環日本海における石製装身具の変遷」『古代学研究所紀要』第 24 号, 3-24 頁, 2016 年 3 月.（査読無）

46) 中村大介「支石墓の多様性と交流」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要』第 6 号, 3-18 頁, 2016 年 3 月.（査読無）

47)＊1中村大介・藁科哲男・福辻淳 2016a「大和盆地東南部出土の石製玉類の産地同定」『纏向学研究』第 4 号, 89-115 頁, 2016 年 3 月.（査読無）

48) 中村大介「東端の遊牧民」『季刊考古学』第 135 号, 43-46 頁, 2016 年 5 月.（査読無）

49) 高木麻里帆・中村大介「カンボジアの伝統的土器製作」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 52 巻第 1 号, 185-195 頁, 2016 年 9 月.（査読無）

50) 中村大介「青銅器時代における二重口縁土器の成立と地域性」『季刊考古学』第 138 号, 2-25 頁, 2017 年 2 月.（査読無）

51)＊1中村大介 ・藁科哲男・忽那敬三 「明治大学博物館所蔵の碧玉製玉類の産地同定」『明治大学博物館研究報告』第 22 号, 13 頁分, 2017 年 3 月刊行予定.（査読有）,

〔山路　直充〕

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

52) 山路直充・松本太郎「平成 23 年度発掘調査報告―下総国分寺跡第 20 次調査区の再調査(3)―」『市立市川考古博物館館報』第 43 号, 27－35 頁, 2016 年 3 月.（査読無）
53) 山路直充「瓦と文字―『大伴五十戸』と記銘された軒丸瓦―」『MUSEUM EYES』第 67 号, 10－11 頁, 2016 年 10 月.（無査読）
54) 山路直充「『下総国分寺跡平成元年～5 年度発掘調査報告書』第 4 章の再録」『市立市川考古博物館館報』第 44 号, 24－31 頁, 2017 年 3 月.（査読無）
〔川尻　秋生〕
55) 川尻秋生「陣定の成立」吉村武彦編『日本古代の国家と王権・社会』, 塙書房, 2014 年 5 月.（査読無）
56) 川尻秋生「弘法大師の成立―真言宗の分裂と統合」新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序国家・社会・聖地の形成』, 勉誠出版, 2015 年 2 月.（査読無）
57) 川尻秋生「文の場―「場」の変化と漢詩文・和歌・「記」」河野貴美子ほか編『「文」の環境―文学以前―』勉誠出版, 378-404 頁, 2015 年 9 月.（査読無）
58) 川尻秋生「船を操る技術」舘野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流3, 遺跡と技術』, 吉川弘文館, 300-321 頁, 2016 年 9 月.（査読無）

＜図書＞

〔石川日出志・吉村武彦・佐々木憲一〕

59)＊1 ISHIKAWA Hideshi, Josef KREINER, SASAKI Ken'ichi, YOSHIMURA Takehiko (eds.) 2016 *Proceedings of the International Symposium on ORIGINS OF OKA MASAO'S ANTHROPOLOGICAL SCHOLARSHIP*. Meiji University, November 27, 2015. Bonn, Bier'sche Verlagsanstalt.(239 pages).
（国際シンポジウム「岡正雄の人類学的学問の形成過程」報告書（全文英語・要旨・引用文献のみ日本語））

Josef KREINER : Oka Masao—the Man and His Footprints in Japanese Ethnology and Viennese Japanology
Ingrid KREIDE-DAMANI : Cultural Anthropology (or Ethnology) in Germany and Austria 1920-1930
Sepp LINHART: Oka Masao Meets Willhelm Schmidt and Willhelm Koppers: From The Country of Eight Million Gods to a Country of One Almighty God Belief
Wolfgang MARSCHALL: The Viennese Roots of Oka Masao
Hans Dieter OELSCHLEGER: Oka Masao and Alexander Slawik: Mutual Influences between Japanese- and German-Speaking Ethnologies
NAKAO Katsumi : Clyde Kluckhohn: Political Position and His Tactics for Applied Anthropology in the US
CHUN Kyung-soo : Why Did GHQ Bring Oka's Dissertation from Vienna to Tokyo?
Andreas SCHIRMER : Korean Students in Europe Related to Oka Masao: Direct and Indirect Connections
SUNAMI Sōichirō Studies on Material Culture by Oka Masao: Methodology of Overcoming Differences in Academic Disciplines
NAKAMURA Daisuke : Oka Masao's Theories on the Japanese Ethnogenesis with Especial Reference to Migrations from the South

〔石川日出志〕

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

60) 石川日出志・松田哲「総論」(関東弥生文化研究会・埼玉弥生土器観会編)2014『熊谷市前中西遺跡を語る—弥生時代の大規模集落—』考古学リーダー23, 六一書房, 3-33 頁, 2014 年 8 月 10 日.

61) 石川日出志(司会)「討議記録」(関東弥生文化研究会・埼玉弥生土器観会編)2014『熊谷市前中西遺跡を語る—弥生時代の大規模集落—』考古学リーダー23, pp.35-63, 六一書房, 2014 年 8 月 10 日.

62) 石川日出志「3章 弥生時代」文化庁(編)『日本発掘！ ここまでわかった日本の歴史』朝日選書 930, 朝日新聞出版, 90-138 頁, 2015 年 2 月 25 日.

63) 石川日出志「卑弥呼時代の北陸」読売新聞北陸支社(編)『北陸から見た日本史』歴史新書, 洋泉社, 41-54 頁, 2015 年 3 月 5 日.

64) 見附市教育委員会(編)2016『国史跡指定記念事業 耳取遺跡シンポジウム—今よみがえるいにしえの縄文ムラ そして未来へ—』, 全 86 頁(石川 pp.33-45・67-86), 2016 年 3 月.

65) 石川日出志 2016「弥生時代研究と文京」(文京ふるさと歴史館編)『文京むかしむかし—考古学的な思い出—』文京ふるさと歴史館, 33-37 頁, 2016 年 10 月 22 日.

66) 石川日出志「弥生時代とはどのような時代か」『平成 28 年度特別展 土器から見た大田区の弥生時代—久ケ原遺跡発見, 90 年—』大田区立郷土博物館, 144-151 頁, 2017 年 1 月 7 日.

〔加藤友康〕

67)＊2加藤友康「日本古代の情報伝達と出土文字史料」吉村武彦編『日本古代の国家と王権・社会』, 塙書房 pp.427－448, 2014 年 5 月

68)＊2加藤友康「平安貴族による日記利用の諸形態」倉本一宏編『日記・古記録の世界』, 思文閣出版, pp.571－607, 2015 年 3 月

69)＊2加藤友康「平安期における鞠智城—九世紀～一〇世紀の対外関係と「菊池城院」「菊池郡城院」—」, 熊本県教育委員会編『鞠智城東京シンポジウム 2015 成果報告書 律令国家と西の護り, 鞠智城』, pp.73－90, 2016 年 3 月

〔吉村武彦〕

70)＊2吉村武彦「「浄御原朝庭の制」に関する二・三の考察」吉村武彦(編)『日本古代の国家と王権・社会』塙書房, 3-29 頁, 2014 年 5 月

71) 吉村武彦「律令制国家の成立と鞠智城」『鞠智城東京シンポジウム 2014』熊本県教育委員会, 20-43 頁, 2015 年 3 月

72)＊2吉村武彦『蘇我氏の古代』岩波書店, 276 頁, 2015 年 12 月

73) 吉村武彦『来し方を振りかえって』私家版, 110 頁, 2016 年 2 月

74)＊2吉村武彦「古代史からみた王権論」『日本古墳時代研究の現状と課題』(韓国語版) Zininzin Co.Ltd, 2016 年 9 月

〔佐々木憲一〕

75) 佐々木憲一「北アメリカから見た古墳時代考古学」福永伸哉(編)『21 世紀の古墳時代像』(『古墳時代の考古学』9), 177-191 頁. 同成社, 2014 年 6 月

76) 佐々木憲一・河野正訓・高橋透・荒井悟(共編)『信濃大室積石塚古墳群の研究 IV』明治大学文学部考古学研究室(総 659 頁), 佐々木執筆分は 1-3, 5-12, 109, 125, 130, 141-144, 154-155, 164, 173, 177-203 頁. 2015 年 3 月

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

77) 佐々木憲一・忽那敬三（共編）『舟塚古墳―埴輪編』茨城県埋蔵文化財調査報告書第 5 集, pp.54-59, 2015 年 3 月.

〔牧野淳司〕

78) 牧野淳司「『平家物語』の風」鈴木健一編『天空の文学史　雲・雪・風・雨』三弥井書店, 143-159 頁, 査読無, 2015 年 2 月

79) 牧野淳司「天下乱逆をめぐる唱導―弁暁草と延慶本『平家物語』―」日下力監修『いくさと物語の中世』汲古書院, 91-108 頁, 査読無, 2015 年 7 月

〔井上和人〕

80)＊2 井上和人「王宮と都城」『日本古代の都市と条里』, 吉川弘文館, 14～28 頁, 査読無, 2015 年 4 月

81)＊2 Inoue Kazuto“Introduce about the total progress of researching and rebuilding in Nara Palace site”〔The international symposium“Conservation and promotion World heritage - focusing on the central sector of the Imperial Citadel of Thang Long - Hanoi”〕(越文・英文).

82)＊2井上和人「日本における平城宮跡の発掘」(韓文・和文)『月城』韓国慶州国立文化財研究所, 174～199p, 2015.12.3

83)＊2井上和人「7世紀における都城・王宮の展開と日本古代国家の構築」『日本古代考古学論集』2－13 頁, 査読無, 2016 年 3 月 31 日

〔山﨑健司〕

84)＊3山﨑健司「大伴家持における体言止めの歌」『論集上代文学』第 36 冊, 笠間書院, 111-126 頁, 2014 年 10 月

85)＊3山﨑健司「梅花歌三十二首再読」『萬葉集研究』第 36 集, 塙書房, 53-82 頁, 2016 年 12 月

〔湯浅　幸代〕

86) 湯浅幸代「湯浅兼道筆『源氏物語聞録』について」日向一雅編『源氏物語注釈史の世界』, 青簡舎, pp.253-273, (査読無)2014 年 2 月

87) 湯浅幸代「物語を切り開く磁場―予言・夢・密通―」単著　助川幸逸郎・立石和弘・土方洋一・松岡智之編『新時代への源氏学』1, 竹林舎, pp.190-208, (査読無)2014 年 5 月

88) 湯浅幸代「『源氏物語』住吉の浜」(鈴木健一編『浜辺の文学史』三弥井書店, pp.71-87, (査読無), 2017 年 2 月

〔居駒永幸〕

89) 居駒永幸「魂の還る処―民俗学者, 谷川健一さんとの対話」pp.49-88, 金山秋男編『日本人の魂の古層』全 192 頁, 明治大学出版会, 2016 年 3 月

〔山路直充〕

90) 山路直充「陸奥国への運穀と多賀城の創建」吉村武彦編『日本古代の国家と王権・社会』, 塙書房, 449－471 頁, 2014 年 5 月

91) 山路直充「第 4 章 手児奈の風景」『図説 市川の歴史 第 2 版』, 市川市教育委員会, 95－128 頁, 2015 年 3 月

92) 山路直充・松本太郎『企画展図録 古代の村ムラ―戸籍と遺跡―』, 市立市川考古博物館, 1－30 頁, 2016 年 3 月

〔川尻秋生〕

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

93) 鈴木靖民・川尻秋生 ・鐘江宏之編『日本古代の運河と水上交通』, 八木書店, 総 458 頁, 2015 年5月, 川尻執筆分3～24 頁
94) 川尻秋生『古代の東国2　飛鳥・奈良時代』, 吉川弘文館, 総 266 頁, 2017 年2月

＜学会発表＞

〔石川日出志〕

95) 石川日出志「東日本大震災の復興調査の進捗状況と課題:趣旨説明・特別委員会報告」(日本考古学協会第 80 回総会・セッション4), 日本大学文理学部, 2014 年 5 月 18 日
96)＊1石川日出志・(研究発表)「「漢委奴國王」金印と漢～魏晋代の古印」(第 5 回高麗大学校・明治大学国際学術会議「歴史と文学を通してみた東アジア」), 韓国・高麗大学校韓国学館, 2014 年 9 月 11 日.
97)＊1石川日出志「考古学者杉原荘介―日本考古学の組織化と国際化―」(＜交響する古代Ⅴ＞, 明治大学大学院文学研究科. ・文部科学省私立大学戦略的研究基盤支援事業・明治大学研究クラスター日本古代学研究所・明治大学国際共同研究プロジェクト・明治大学日本古代学教育研究センター), 明治大学グローバル・ホール, 2015 年 2 月 27 日.
98) 石川日出志「縄文・弥生時代の気仙地域―北と南をつなぐ―」(気仙科研市民向け報告会＜歴史・考古・民俗学から気仙地域の魅力を語る＞), 陸前高田市横田基幹集落センター, 2015 年 2 月 15 日
99)＊1石川日出志「再加工漢魏晋代駝鈕印―「漢委奴國王」金印の再検討から―」(南京大学考古名家講堂第 4 輯), 中国・南京大学, 2015 年 3 月 18 日.
100)＊1石川日出志「「漢委奴國王」金印と四夷印」(第 8 回高麗大学校・明治大学学術交流行事＜韓日文学歴史学の諸問題(Ⅳ)＞), 韓国・高麗大学校, 2015 年 9 月 10 日.
101)＊1石川日出志「「漢委奴國王」金印と漢魏晋代の四夷印」(国際学術シンポジウム＜東アジア古代都市のネットワークを探る＞黄暁芬科学研究費報告会), 東京大学, 2015 年 9 月 27 日.
102)＊1石川日出志「漢魏晋代四夷印と「漢委奴國王」金印」(中国社会科学院国際合作局・日本明治大学＜中日交流與中日関係的歴史考察学術研討解(第 5 届)＞), 中国社会科学院, 1-13 頁, 2015 年 11 月 2 日.
103)＊1石川日出志「座談会＜日本民族の起源＞1948 とその後の日本考古学」(国際学術研究会＜交響する古代Ⅵ―古代文化資源の国際化とその意義―＞), 明治大学, 2016 年 1 月 20 日.
104) 石川日出志「三陸に弥生遺跡が少ないのはなぜか」(市民向け科研成果報告会＜歴史・考古・民俗学から気仙の魅力を語るⅡ＞), 岩手県陸前高田市コミュニティホール, 2016 年 2 月 21 日.
105) 石川日出志「5年間の活動から見た今後への提言」(セッション8　東日本大震災対策特別委員会＜東日本大震災対策特別委員会の5年間の活動－復興調査支援の取組と調査成果の還元及び残された課題－」), 日本考古学協会第 82 回総会, 東京学芸大学, 2016 年 5 月 29 日
106) 石川日出志「弥生時代再葬墓研究の諸問題」(考古学研究会第 41 回東京例会), 明治大学, 2016 年 6 月 11 日
107)＊1石川日出志「Post-WWII Japanese Archaeology and the Founding of the Japanese Archaeological Association in 1948」(世界考古学会議第 8 回京都大会 WAC8公開講演会), 同志社大学室町キャンパス, 2016 年 8 月 28 日.
108) 石川日出志「近代日本考古学導入をめぐる相剋―文明史観派と有職故実派―」(第 7 回明治

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

大学・高麗大学校国際学術会議), 韓国・高麗大学校, 2016 年 9 月 7 日. ＊
109) 石川日出志「日本列島の環濠集落―弥生時代の防御性集落―」(中国社会科学院世界史研究所), 世界史研究所, 2016 年 10 月 28 日
110)＊1石川日出志「金印「漢委奴國王」の字形」(公開シンポジウム＜ふたたび「漢委奴國王」金印を語る＞, 明治大学日本古代学研究所), 明治大学, 2016 年 12 月 3 日.
111)＊1石川日出志「二つの金印―「漢委奴國王」と「親魏倭王」―」(明治大学国際日本学研究センター＜交響する古代Ⅶ＞), 明治大学, 2017 年 1 月 14 日.
112) 石川日出志「北上山地の洞穴遺跡―縄文・弥生時代の三陸海岸と北上山地―」(科研費＜気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究＞報告会), 岩手県住田町農林会館, 2017 年 2 月 11 日

〔吉村　武彦〕
113)＊2吉村武彦「井上光貞と律令法研究」(私立大学戦略的基盤形成支援事業採択記念シンポジウム, 日本古代学研究所), 明治大学, 2014 年 11 月 22 日
114)＊2吉村武彦「東アジアにおける日本古代国家の形成の諸問題」(中国社会科学院国際合作局・日本明治大学学術検討会), 中国社会科学院, 2015 年 11 月 3 日
115) 吉村武彦「古代武蔵国の時空間」(古代武蔵国研究会), 明治大学, 2015 年 11 月 15 日
116) 吉村武彦「『播磨国風土記』とクニ・国土」(公開シンポジウム「『播磨國風土記』研究の現代的意義」, 日本古代学研究所), 明治大学, 2016 年 11 月 12 日

〔佐々木憲一〕
117) 佐々木憲一 “State Formation in East Peripheral Region of Japan.” Society for American Archaeology, 79th Annual Meeting, Austin, Texas, April 26, 2014.
118) 佐々木憲一「国家形成過程における大室古墳群の占める位置－趣旨説明に代えて－」(日本考古学協会第 80 回(2014 年度)総会), 日本大学文理学部, 2014 年 5 月 18 日
119) 佐々木憲一「近世・近代の日本に見る考古学の起源」(国際会議「フランスと日本における考古学・文化財とアイデンティティ」), 日仏会館, 2014 年 11 月 1 日
120) 佐々木憲一 “Transformation of Elite Symbolism from Keyhole-shaped Burial Mounds to Buddhist Temples in Seventh-Century Japan”(明治大学大学院文学研究科・南カリフォルニア大学学術交流), USC, 2014 年 12 月 3 日
121) 佐々木憲一 “Introduction of a Practice of Horse-Riding in Fifth-Century Japan and its Political Significance.” Society for American Archaeology, 80th Annual Meeting, San Francisco, Calif., April 16.
122)＊1佐々木憲一 “Social Stratification during the Kofun Period, Japan.”(ドイツ, チュービンゲン大学との学術交流), 2015 年 11 月 5 日
123)＊1佐々木憲一「在外日本考古資料の資源化」(国際学術研究会＜交響する古代Ⅵ―古代文化資源の国際化とその意義―＞), 明治大学, 1 月 20 日
124) 佐々木憲一 “Archaeological Investigations of the Sixth-Century History of Southern Hitachi Province.” (明治大学大学院文学研究科・南カリフォルニア大学学術交流), 2016 年 3 月 17 日
125) 佐々木憲一 “Recent Discoveries and Controversies—Japan.” Asian Archaeology: Recent Discoveries and Controversies. Harvard-Yenching Institute Roundtable Discussion, March 28, 2016
126) 佐々木憲一 “Adoption of a Practice of Horse-Riding in Fifth Century Japan.” (第 7 回 Society for East Asian Archaeology 大会), アメリカ合衆国ハーヴァード大学・ボストン大学, 2016 年 6 月 11 日.
127)＊1佐々木憲一 “Regional Difference in Elite Symbolism during Kofun Period Japan.” (第 8 回

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

世界考古学会議 WAC8），同志社大学，2016 年 8 月 29 日.

128）佐々木憲一 “Archaeological Investigations into the Omuro Cairn and Earthen Mound Group, Central Highlands of Japan (5th to 7th Centuries A.D.).” アメリカ合衆国ペンシルベニア大学，2016 年 10 月 3 日

129）＊1佐々木憲一「古墳時代の対外交渉」（中国社会科学院世界史研究所との学術交流），中国社会科学院世界史研究所， 2016 年 10 月 28 日

130）＊1佐々木憲一 ・及川穣 「資料学的アプローチによる北米の在外考古資料の資源化：近代化課程の分析と超克」（国際学術研究会<交響する古代学Ⅷ－古代文化資源の国際化とその意義 vol.2 —>），明治大学， 2017 年 1 月 14 日

131）佐々木憲一 “Archaeological Investigations into the Dainichizuka Mounded Tomb (late sixth century), Ibaraki Prefecture, Eastern Japan.”（明治大学大学院文学研究科・南カリフォルニア大学学術交流），USC，2017 年 2 月 16 日

〔牧野 淳司〕

132）＊3牧野淳司「源氏物語表白の文化史的研究」（国際学術研究会<交響する古代学Ⅶ- 古代文化資源国際化とその意義 Vol.2->），明治大学，2017 年 1 月 14 日

133）牧野淳司「平安時代後期の日本仏教と高麗」（第 7 回明治大学・高麗大学校国際学術会議），韓国・高麗大学校，2016 年 9 月 7 日

134）牧野淳司「唱導における翻訳の想像力」（The 2nd East Asian Translation Studies Conference），明治大学，2016 年7月 10 日

〔加藤 友康〕

135）加藤友康「日本古代社会における交通の特質—「物流」と「情報伝達」の二つの流れに即して—」（交通史学会），滋賀大学，2014 年 5 月 10 日

136）＊2加藤友康「平安時代史をどう捉えてきたか—通史叙述にみる平安時代像—」（＜日中交流与日中関係歴史考察学術検討会＞，中国社会科学院国際合作局・明治大学），中国社会科学院，2015 年 11 月 3 日

137）＊2加藤友康「古事談における古記録の抄録—貴族たちが共有した「世界」—」（国際日本文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」2015 年度第 6 回研究会報告），国際日本文化研究センター，2016 年 3 月 5 日

138）＊2加藤友康「古事談の情報源—古記録が筆録した情報と「言談」への変容の検討を通して考える—」（国際日本文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」2016 年度第 3 回研究会報告）， 国際日本文化研究センター，2016 年 9 月 11 日

139）＊2加藤友康「日本古代における文書整理の営為」（国際学術研究会＜交響する古代Ⅶ＞，明治大学大学院文学研究科／文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業／明治大学国際日本古代学研究クラスター／明治大学日本古代学教育・研究センター），明治大学，2017 年 1 月 14 日

〔井上 和人〕

140）井上和人「日本平城宮跡の発掘調査研究」（韓国国立慶州文化財研究所主催「慶州月城調査研究国際学術大会」），韓国慶州市，2015 年 11 月

141）井上和人「平城宮の調査研究と保存活用」（ベトナム・ハノイ市タンロン皇城遺跡センター主催「タンロン皇城遺跡世界遺産登録5周年記念タンロン皇城遺跡中枢部の研究と整備 国際シンポジウム」），ハノイ市，2015 年 12 月

142）＊2井上和人「唐長安城（隋大興城）形制規格復元試論」（条里制・古代都市研究会第 31 回大会），奈良市，2016 年 3 月

143）＊2井上和人「日本列島の王宮・都城と中華帝国・朝鮮半島三国との関係性」(明治大学・中国社会科学院研究交流)，北京中国社会科学院世界史研究所，2016 年 10 月 28 日.

〔山崎 健司〕

144）山﨑健司「萬葉歌における類型的表現」（国際学術研究会「交響する古代」Ⅴ），明治大学，

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

2015 年 2 月 28 日

〔湯浅　幸代〕

145)＊3湯淺幸代「『源氏物語』蛍巻の物語論」(国際学術研究会「交響する古代」Ⅴ), 明治大学, 2015 年 2 月

146)＊3湯淺幸代「『源氏物語』の皇統について」(第六回明治大学・高麗大学校国際学術會議), 明治大学, 2015 年 10 月

147) 湯淺幸代「『竹取物語』の英訳比較 ―かぐや姫の描き方を中心に―」(The 2nd East Asian Translation Studies conference), 明治大学, 2016 年 7 月 10 日

〔中村　大介〕

148)＊1 Nakamura Daisuke, "Bead Traders and Political Power during the Formation of Early States", Sixth Worldwide SEAA Conference, National University of Mongolia 2014 年 6 月 9 日

149)＊1中村大介「芝ヶ原古墳出土の玉類について」(シンポジウム:芝ヶ原古墳と卑弥呼の時代), 2014 年 8 月 9 日

150) 中村大介「支石墓にみる日韓交流」(シンポジウム:支石墓の謎-墓地にみる日韓交流-), 京都府城陽市文化パルク, 2014 年 9 月 27 日

151) 中村大介「日本の墳丘墓の起源と発展」(シンポジウム:馬韓墳丘墓の起源と発展), 韓国・光州常緑会館会議室, 2015 年 1 月 9 日

152)＊1中村大介「日韓の石製玉類の流通とその変化」(シンポジウム:玉の流通から紐解く東アジアの交渉), 韓国・大韓文化財研究院, 2015 年 1 月 30 日

153)＊1中村大介「楽浪郡存続期の交易と競合」(国際学術研究会「交響する古代」Ⅴ), 明治大学, 2015 年 2 月 27 日

154)＊1 Nakamura Daisuke, "Trade route of the glass beads around the Yellow Sea from 1st century BCE to 3rd century CE", 15th international conference of the European Assn of Southeast Asia Archaeologists, Université Paris Ouest Nanterre La Défense 2015.7.9

155) ＊ 1 Nakamura Daisuke, "Oka Masao and Sea People", Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship, Meiji University, 2015.11.27.

156)＊1 藁科哲男・中村大介 ・福辻淳 「纏向遺跡出土の石製装身具の産地同定」(日本文化財化学会第 33 回大会), 奈良大学, 2016 年 6 月 4 日

157) Nakamura Daisuke, "Early pottery for long distance trade around the East China Sea" 8th world archaeological congress, Doshisha University, 2016.8.29.

158) Nagatomo Tomoko, Nakamura Daisuke, Kim Gyuho, "Comparative study of pottery production on the Japanese archipelago and Korean peninsula during the early period of kiln use", 7th worldwide conference of the society for East Asian Archaeology, Harvard University, 2016.6.10-11

159) 中村大介 ・正司哲朗・ロチン・イシツェレン・Gelegdorj Eregzen「モンゴル国ホスティン・ボラク遺跡の青銅器時代墓群の分布調査」(第 18 回北アジア調査研究報告会), 札幌学院大学, 2017 年 2 月 19 日

〔山路　直充〕

160) 山路直充「『香取の海』をめぐる郡家と寺院・神社の造営」(史学会例会シンポジウム『古代東国の地方官衙と寺院』), 東京大学, 2015 年 9 月 5 日

〔川尻　秋生〕

161) 川尻秋生「出土文字資料からみた総武河口論」(国際学術研究会＜交響する古代Ⅴ＞), 2015 年 2 月 27 日, 明治大学

162) 川尻秋生氏「古代東国の在地社会と仏教」(民衆史研究会 2016 年度大会シンポジウム), 2016 年 11 月 27 日, 早稲田大学

（様式1）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況，インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には，URL を記載してください。
HP： 明治大学日本古代学研究所 http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_info.html

＜既に実施しているもの＞
●シンポジウム・公開研究会
〇2014 年度
163)＊1・2： 2014 年 11 月 22 日(土) 13:00～16:30 於：明治大学リバティタワー3階 1031 教室
公開シンポジウム『明治大学の文化資源と岡正雄・杉原荘介・井上光貞』〔参加者 79 名〕
石川日出志「杉原荘介と日本考古学界」
吉村 武彦「井上光貞の律令法研究」

164)＊1・2・3： 2015 年 2 月 27 日(金)～28 日(土) 10:00～17:30 於：明治大学 グローバルホール
国際学術研究会『交響する古代Ⅴ』〔参加 185 名〕
石川日出志（基調講演）「考古学者 杉原荘介－日本考古学の組織化と国際化」
中村大介 「楽浪郡存続期の交易と競合」
川尻秋生 「出土文字資料からみた総武河口論」
山﨑健司 「萬葉歌における類型的表現」
湯淺幸代 「『源氏物語』蛍巻の物語論」
神野志隆光 「テキストがあらしめた「古代」・「歴史」・「歌」―方法としてのテキスト理解―」
土井翔平 「東日本における弥生・古墳時代移行期の墓制の変遷
五十嵐基善 「古代日本の軍事施設について－対外防衛問題と対蝦夷問題－」
桜田真理絵 「「後宮」の形成とその意義」
小滝真弓 「『浜松中納言物語』における転生の位相－弥勒下生信仰との関わりから－」
Jason P Webb 「『文華秀麗集』における「梵門」誌の検討」
鄭雨峰 「朝鮮通信使朴安期と江戸知識人の交流について」
沈慶昊 「三国遺事と偈頌，詩歌，讃」
〇2015 年度
165)＊2： 2015 年 9 月 26 日(土) 14:00-17:00 於：明治大学リバティタワー2 階 1021 教室
公開研究会「伊勢神宮・出雲大社の遷宮をめぐって」〔参加 113 名〕
千家和比古（出雲大社・権宮司）
コーディネーター：吉村武彦
166)＊2： 2015 年 11 月 15 日(日) 9:30-17:00 於：明治大学グローバルホール
主催／古代武蔵国研究会，日本古代学研究所
第3回 古代武蔵国シンポジウム『武蔵国の国府と地域社会』
吉村武彦 「古代武蔵の時空間」
江口 桂「国府の実像を探る」
服部一隆「古代における国郡里と村」
鶴間正昭「多磨郡の集落分布とその変遷」
根本 靖 「入間郡の集落分布とその変遷」
荒井秀規「入間路を往来した人々」

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

黒済玉恵「多磨・入間の境界と悲田処」

167)＊1： 2015 年 11 月 27 日(金) 10:00-17:00 於：明治大学 グローバルホール

国際シンポジウム『Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship』

（邦題：岡正雄の人類学的学問の形成過程）

石川日出志（趣旨説明）

Josef Kreiner（ドイツ・ボン大学名誉教授） 「Oka Masao,the Founder of Japanese Ethnology」

中生勝美（桜美林大学教授） 「Clyde Kluckhohn : Political position and his Tactics for Applied Anthropology in USA」

Wolfgang Marschall（スイス・ベルン大学名誉教授）「The Viennese Roots of Oka Masao」

Andreas Schirmer（オーストリア・ヴィーン大学助教） 「Korean students in Europe related to Oka Masao : deirect and indirect connections」

CHUN Kyung-soo（ソウル国立大学校教授） 「Why GHQ brought Oka's dissertation from Wien to Tokyo?」

Sepp Linhart（オーストリア・ヴィーン大学名誉教授） 「From a myriad of gods to one single almighty god belief: Oka Masao meets Wilhelm Schmidt and Wilhelm Koppers」

Hans Dieter Ölschleger（ドイツ・ボン大学准教授） 「Oka Masao and Alexander Slawik :Mutual Influences between Japanese and German-Speaking Ethnologies?」

角南聡一郎（元興寺文化財研究所研究員） 「Oka Masao's Study for Material Culture」

中村大介（埼玉大学准教授） 「Oka Masao and Sea People」

吉村武彦（明治大学文学部教授）〈閉会挨拶〉

168)＊1・3： 2016 年 1 月 20 日(水)～21 日(木) 10:00-17:00 於：明治大学グローバルホール

国際学術研究会『交響する古代Ⅵ』（全体テーマ）古代文化資源の国際化とその意義

〔参加 161 名〕

佐藤兼理（古代研・杉原資料担当）

「土器型式と住居構造－弥生時代後期の多摩丘陵を例に－」

関恭平（古代研 RA）「『源氏物語』若菜下巻における住吉詣の風景について」

石川日出志 （基調講演）「座談会「日本民族の起源 1948」とその後の日本考古学」

ヨハネス・ヴィルヘルム（ウィーン大学東アジア研究所・岡資料研究協力者）

「「シュタイル学派」：小人を追った St.Gabriel の民族学者たち」

牧野淳司 「源氏物語表白と院政期の文化状況」

佐々木憲一「在外日本考古資料の資源化」

賀雲翱 「初論墓誌学」

鄭雨峰「1719 年 日本通信使 使行録 研究」

金文京「大津皇子「臨終一絶」とその中国・朝鮮における類似作について」

伊集院葉子「日本令英訳の試み」

シュタイネック智恵「ヨーロッパにおける日本文化資源研究とその成果—「欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査」を一例として—」

沈慶昊「韓国古代石碑文の文体」

マイケル・ワトソン「枕詞英訳の変遷」

ブルース・バートン「英語圏における日本古代史および関連分野の出版事情－日本人研究者への海外発信の呼びかけ－」

〇2016 年度

169)＊3： 2016 年 4 月 9 日(土)～16 日(土) 於：明治大学アカデミーコモン1階展示スペース

写真展『宮古島の神々の世界』〔記名 68 名〕

（様式１）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

170)＊3:　2016 年 4 月 16 日(土) 13:30-16:30　於:明治大学リバティホール
公開講演会『宮古島の神々の世界－神と人と海・森－』〔参加 116 名〕
〈琉球を相対化するもうひとつのオキナワ〉
講演:　居駒永幸「宮古島の神歌とは何か」
対談:　神と人と海・森～祭祀のゆくえ～」:居駒永幸・佐渡山安広
あいさつ・司会:吉村武彦

171)＊2:　2016 年 11 月 12 日(土)　10:00-17:00　於:明治大学グローバルフロント1階・多目的室
公開シンポジウム『『播磨國風土記』研究の現代的意義』
石川日出志　開会あいさつ
吉村武彦　趣旨説明
吉村武彦「『播磨國風土記』とクニ・国土」
Edwina Palmer「海外の日本文学者からみた播磨国風土記の魅力—口承文学—」
坂江　渉　「歴史学から読み解く播磨国風土記の神話—口頭の祭祀儀礼—」
古市　晃　「『播磨国風土記』からみた倭王権の地域編成」
和田晴吾　「『播磨国風土記』と考古学」
討論

172)＊1:　2016 年 12 月 3 日(土) 13:30-17:00　於:明治大学リバティタワー1階 1012 教室
公開シンポジウム『ふたたび「漢委奴國王」金印を語る』〔参加 136 名〕
石川日出志　「金印「漢委奴國王」の字形」
大塚紀宜「古代中国駝鈕印の形態的属性による検討」
本田浩二郎「「漢委奴國王」金印－鈕孔に関する視点」
コメント:鈴木　勉・三浦佑之

173)＊1・2・3:　2017 年 1 月 13 日(金)～14 日(土)　10:00-17:00
国際学術研究会『交響する古代Ⅶ』〔参加 120 名〕
（全体テーマ）古代文化資源の国際化とその意義　vol.2
関恭平（古代研 RA）「『源氏物語』蜻蛉巻薫独詠歌について
—「荻の葉に露ふきむすぶ秋風」を起点として—」
及川穣・佐々木憲一「資料学的アプローチによる北米の在外考古資料の資源化
—近代化過程の分析と超克—」
加藤友康「日本古代における文書整理の営為」
吉村武彦「大宝令の復元と『令集解』『日本書紀』データベース
—大宝田令の復元を通じて－」
石川日出志「二つの金印－「漢委奴國王」と「親魏倭王」」
牧野淳司「源氏物語表白の文化史的研究」
Karl　Friday「武士研究の研究史のなかでの日本と外国の相互作用」
鄭雨峰「箴言集『呻吟語』の東アジアの伝播と受容について」
中村成里「『栄花物語』巻二五の検討—後伏見天皇筆栄花物語切を端緒として—」
植田　麦「『古事記』における名と称の表現—大物主神を中心に—」
小口雅史「在欧敦煌吐魯番文書の調査成果とその文化資源化」
久米雅雄「アジア印章史の研究と方法論と印章文化資源の国際化—寧楽美術館所蔵
古璽印等の印学的研究と海外での公表と刊行—」
Janet R. Goodwin「近代以前日本史研究における共同研究と協力関係」
鈴木卓治「正倉院文書歴博複製資料の自在閲覧システムの開発とその展開」

●インターネット公開状況　http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_outcome.html
174)＊2 墨書土器研究文献目録 1929 年～2015 年発行分（Excel 版／Filemaker 版）
175)＊2 墨書土器データベース:東京都（補遺）（Excel 版／Filemaker 版）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

176）＊3『源氏物語聞録』全九冊翻刻・PDF

＜新聞に掲載されたもの＞
・＊2『神戸新聞』2016 年 11 月 13 日（日）「播磨国風土記の研究成果を発表　東京でシンポ」（11 月 12 日開催シンポジウムの報道）
・＊1 『朝日新聞』（福岡版）2017 年 3 月 7 日：「「終結宣言」まだ？　広がる真贋論争　志賀島の国宝金印」（2016 年 12 月 3 日開催公開シンポジウムの報道）

＜これから実施する予定のもの＞
〇2017 年度
・『古代学研究所紀要』25 号（2017 年 10 月中予定）・26 号（2018 年 2 月中予定）：印刷冊子版と pdf：WEB 版作成（予定／試行）
・2017 年5月 17～28 日：明治大学所蔵品展（大型研究・テーマ3／中世文学会春季大会共催・特別展示：明治大学博物館特別展示室／中央図書館ギャラリー）
・2017 年 8 月 30～9 月 2 日：ヨーロッパ日本学シンポジウム（大型テーマ1・2／於：ポルトガル・リスボン）報告者：吉村武彦・加藤友康・佐々木憲一
・2017 年 9 月 30 日（予定）：公開シンポジウム「井上光貞と令集解」（大型・テーマ2）
・2017 年 10 月 28 日(予定)：公開シンポジウム「テキストから読み解く古代の心性」（大型・テーマ3）牧野淳司・湯淺幸代・山﨑健司
・2017 年 11 月 11 日（予定）：公開シンポジウム「（仮）杉原荘介シンポジウム」（大型・テーマ1）石川日出志・佐々木憲一
・2017 年 11 月 30 日～12 月 1 日（予定）：国際学術研究会「交響する古代Ⅷ」
・インターネット公開：『源氏花鳥芳囀』写本・翻刻

14　その他の研究成果等

「１２　研究発表の状況」で記述した論文，学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。　また，上記１１（４）に記載した研究成果に対応するものには＊を付してください。

〔石川日出志〕

177）石川日出志（連続講座）『弥生時代の遺跡を語るⅢ—玄界灘東岸～山陰～北近畿—』，リバティ・アカデミー，明治大学，2014 年 4 月 24 日～12 月 4 日（全 10 回）.

178）石川日出志（講座）「土器の製作（縄文土器と弥生土器）」・「稲作と狩猟生活」『古代学研究の最前線Ⅹ—いにしえ人の生き方とかたち—』，明治大学リバティ・アカデミー，明治大学，2014 年 5 月 27 日・6 月 10 日.

179）石川日出志（講座）「弥生時代(1)縄文から弥生へ」・「弥生時代(2)弥生時代の西・東」，早稲田大学エクステンションセンター，2014 年 6 月 7 日・6 月 14 日.

180）石川日出志（講演）「緒立遺跡の時代」，企画展＜新潟県最古の弥生文化　緒立遺跡展＞特別講演会，新潟市文化財センター，2014 年 6 月 15 日.

181）石川日出志（講演）「栗林式土器と柳沢遺跡」，開館 5 周年＜柳沢遺跡出土品重要文化財指定記念　銅戈・土偶と柳沢遺跡＞講演会，長野県中野市立博物館，2014 年 7 月 20 日.

182）石川日出志（講演）「日本発掘！　ここまでわかった日本の歴史：　弥生時代」，＜発掘された日本列島＞20 周年記念連続講演会第 4 回，文化庁主催，江戸東京博物館，2014 年 8 月 29 日.

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

183) 石川日出志（講演）「広田湾岸の縄文時代貝塚群」，陸前高田市文化財等保存・活用計画策定事業調査報告会，陸前高田市米崎地区コミュニティセンター，2014 年 8 月 31 日.

184) 石川日出志（特別講演）「邪馬台国を再考する」，宗像市教育委員会主催いせきんぐ宗像シンポジウム，宗像ユリックス・ハーモニーホール，2014 年 9 月 7 日.

185) 石川日出志（連続講座）『弥生時代の遺跡を語るⅣ—北陸—』，明治大学リバティ・アカデミー，明治大学，2015 年 4 月 16 日～12 月 3 日（全 12 回）.

186) 石川日出志（講座）「金印研究の現在」・「弥生時代の東日本と西日本」，『古代学研究の最前線ＸＩ—文化資源・文化遺産と古代学—』，明治大学リバティ・アカデミー，明治大学，2015 年 5 月 26 日・6 月 9 日.

187) ＊1 石川日出志（講座）「杉原荘介と弥生時代研究」，第 56 回明治大学博物館公開講座考古学ゼミナール考古学専攻開設 65 周年記念＜杉原荘介と明治大学の考古学研究＞，明治大学，2015 年 6 月 26 日.

188) 石川日出志（講演）「信州の弥生文化と西日本」，長野県立歴史館移動展＜速報 長野県の遺跡発掘 2015 協賛企画展「金印・卑弥呼時代のお宝！ 松本平におけるいのり の遺物」展＞，安曇野市豊科郷土博物館主催，豊科交流学習センター，2015 年 9 月 20 日.

189) 石川日出志（講演）「弥生時代青銅器をめぐる最近の調査・研究動向」，＜日本考古学 2015＞，明治大学博物館友の会講演会，明治大学，2015 年 9 月 26 日.

190) 石川日出志（シンポジウム・パネリスト）「パネルディスカッション（１）耳取縄文ムラのすがた，（２）これからの整備活用に向けて」，国史跡指定記念事業耳取遺跡シンポジウム＜今よみがえる いにしえの縄文ムラ そして未来へ＞，見附市教育委員会主催，見附市中央公民館，2015 年 10 月 25 日.

191) 石川日出志（講演）「邪馬台国時代と房総」，＜平成 27 年度講演会「はるかなる西上総の歴史」—弥生時代から古墳時代へ—＞，千葉県教育振興財団主催，君津市生涯学習交流センター，2015 年 11 月 7 日.

192) ＊1 石川日出志（講演）「金印論争終結宣言—複眼的資料論から—」，＜博多湾岸《金印ロード》プロジェクト・シンポジウム＞，福岡市博物館主催，2015 年 11 月 8 日.

193) 石川日出志（特別講演会）「弥生時代の「小松文化」」・（パネルディスカッション・コーディネーター）＜フォーラム・小松式土器の時代Ⅱ　小松発　北陸新幹線ルートの弥生文化を探る＞，小松市サイエンスヒルズこまつ，2015 年 11 月 29 日.

194) 石川日出志（連続講座）『弥生時代の遺跡を語るⅤ—東海—』，明治大学リバティ・アカデミー，明治大学，2016 年 4 月 21 日～7 月 21 日（全 7 回）.

195) 石川日出志（講座）「歴博の新弥生時代年代論をどうとらえるか」，第 58 回明治大学博物館公開講座＜考古学の「年代」はいま＞，明治大学，2016 年 6 月 17 日.

196) ＊1 石川日出志（講演）「金印・銅鐸，卑弥呼の時代の東海」，浜松市博物館テーマ展＜弥生時代の土器と交流＞特別講座（第 1 回），浜松市博物館，2016 年 6 月 12 日.

197) 石川日出志（講演）「弥生時代はどんな時代か？」，市川市考古博物館企画展＜大むかしのいちかわ—米づくりが始ったころ—＞記念講演，2016 年 7 月 30 日.

198) 石川日出志（講演）「弥生時代の南関東」，相模原市旧石器ハテナ館事業講演会，2016

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

年 8 月 20 日.

199) 石川日出志（講演）「大洗一帯の弥生文化の魅力を語る」，大洗町考古学講演会，大洗町教育委員会主催，大洗町中央公民館，2016 年 9 月 25 日.

200) 石川日出志（講演）「“親魏倭王”卑弥呼」，＜「鬼道を事とし，能く衆を惑わす」―卑弥呼の鬼道―＞桜井市纏向学研究センター東京フォーラムⅤ，桜井市主催，日本教育会館，2016 年 10 月 9 日.

201) ＊1 石川日出志（講演）「弥生時代青銅器と熊本」，日本古代学熊本講演会＜火の国・熊本の古代を語る＞，くまもと県民交流館，2016 年 11 月 3 日.

202) 石川日出志（講演）「山元遺跡と倭国大乱の時代」，シンポジウム：山元遺跡は何を語るのか，村上市教育委員会主催，神納東小学校，2016 年 11 月 20 日.

203) 石川日出志（講演）「根塚遺跡が語る弥生文化の躍動」，木島平村歴史講演会，木島平村ふるさと資料館主催，木島平村農村交流館，2016 年 11 月 27 日.

204) 石川日出志（講演）「弥生時代の茨城」，茨城県教育財団主催＜見てふれて楽しい考古学＞関連事業埋蔵文化財講演会，茨城県立歴史館，2016 年 12 月 17 日.

205) 石川日出志（講演）「弥生時代とはどのような時代か」，平成 28 年度特別展＜土器からみた大田区の弥生時代―久ヶ原遺跡，90 年―＞記念講演会第 1 回，大田区郷土博物館，2017 年 1 月 22 日

206) 石川日出志（講演）「東日本弥生文化の変革」，佐倉市岩名天神前遺跡公開シンポジウム，同実行委員会，佐倉音楽文化ホール，2017 年 2 月 19 日

207) 石川日出志（基調講演）「東日本の農耕社会の成立」，シンポジウム＜三遠南信周辺における中期弥生土器と交流－稲作導入期の社会－，地域と考古学の会主催，浜松市地域情報センター・ホール，2017 年 2 月 25 日

208) ＊1 石川日出志（講演）「金印の時代―「漢委奴國王」と「親魏倭王」―」，神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会主催，地球市民かながわプラザ，2017 年 3 月 10 日.

209) 石川日出志（座談会）＜みんなで語ろう神崎遺跡＞，綾瀬市教育委員会主催，神崎遺跡資料館，2017 年 3 月 11 日.

210) 石川日出志（パネルディカッション・ミニ講演）「遺跡群を考える，まだ見えない部分を探る」，唐津松浦墳墓群国史跡指定記念シンポジウム＜末盧国の自叙伝―末盧国の成立に迫る―＞，唐津市教育委員会主催，唐津市浜玉町ひれふりランド，2017 年 3 月 18 日.

〔吉村　武彦〕

211) ＊2 吉村武彦（講演）「『古事記』『日本書紀』とヤマト王権の成立」大阪府立近つ飛鳥博物館秋季特別展講演会，大阪府立近つ飛鳥博物館，2014 年 11 月 23 日

212) ＊2 吉村武彦（講演）「古代東国の文字世界」群馬県主催，吉井文化会館，2016 年 3 月 6 日

213) ＊2 吉村武彦（講演）「高麗郡の建郡と東国世界」高麗郡 1300 年大学，埼玉女子短期大学，2016 年 10 月 15 日

214) ＊2 吉村武彦（講演）「江田船山古墳出土大刀銘と５世紀の社会」日本古代学熊本講演会＜火の国・熊本の古代を語る＞，くまもと県民交流館，2016 年 11 月 3 日

215) 吉村武彦（講演）「市川のいにしえ―下総国葛飾郡の成立」市川市史講演会，2016 年 11 月 19 日

216) 吉村武彦（講演）「『書紀』の語るヤマト王権と河内」奈良県，王寺町リーベルホール，

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

2016 年 12 月 17 日
217) 吉村武彦（講演）「斉明女帝のまつりごと」日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会，明治大学，2017 年 3 月 4 日
218) 吉村武彦「日本古代学への想い」『岩波講座 日本歴史月報』10，1-4 頁，岩波書店，2014 年 9 月
219) 吉村武彦「『大系日本国家史』の前後」『学縁』原秀三郎先生傘寿記念文集刊行会，2014 年 12 月
220) 吉村武彦「石母田正さんの学問と魅力」『日本歴史』800，日本歴史学会，20－26 頁，2015 年 1 月
221) 吉村武彦「飛鳥の時代と蘇我氏」『世界に伝えたい飛鳥・藤原の魅力』明治大学日本古代学研究所，31-34 頁，2015 年 3 月
222) 吉村武彦「二度即位した女帝・斉明天皇と飛鳥の歩み」『歴史街道』347，120-123 頁，201721 年 2 月

〔佐々木憲一〕
223) 佐々木憲一 “Archaeological Investigations into the Omuro Cairn and Earthen Mound Group, Central Highlands of Japan (5th to 7th Centuries A.D.)” 九州大学大学院（留学生向けの講演会），2014 年 11 月 19 日
224) 佐々木憲一（監訳）設楽博巳（訳）『複雑狩猟採集民とはなにか―アメリカ北西海岸の先史考古学』（原著 Ames, Kenneth M. and Herbert D.G. Maschner The Peoples of the Northwest Coast: Their Archaeology and Prehistory）（総 292 頁）雄山閣，2016 年 9 月
225) ＊1佐々木憲一「古墳時代の熊本―周縁から見た古墳文化―」，日本古代学熊本講演会＜火の国・熊本の古代を語る＞，くまもと県民交流館，2016 年 11 月 3 日

〔牧野　淳司〕
226) 牧野淳司「天下乱逆をめぐる唱導―澄憲・弁暁・平家物語―」（金沢文庫連続講座「仏教説話の世界」，神奈川県立金沢文庫，2015 年 10 月 10 日）
227) 牧野淳司「平清盛」（多摩美術大学連続講座「世紀を歩く―美術と文化Ｖ　１２世紀」，中町ふれあいホール，2015 年 5 月 16 日）
228) 牧野淳司（講演）「なぜ熊野を目指すのか？」（【明治大学・東紀州地域振興公社連携講座】文学と旅日記から見た熊野，明治大学，2016 年，11 月，14 日）

〔加藤友康〕
229) 加藤友康「平安時代の肥後国―摂関時代を中心とした地域社会と中央とのネットワークを受領の活動からみる―」，日本古代学熊本講演会＜火の国・熊本の古代を語る＞，くまもと県民交流館，2016 年 11 月 3 日
230) 加藤友康「下総国府をとりまく人々の活動」（市川市主催　明治大学国際日本古代学研究所共催『市川市史講演会』），2016 年 11 月 19 日

〔井上和人〕
231) 井上和人「古代山城・鞠智城と都城」火の国・熊本の古代を語る」（，日本古代学熊本講演会＜火の国・熊本の古代を語る＞，くまもと県民交流館，2016 年 11 月 3 日
232) 井上和人「古代山城の真実－鞠智城は，なんのためにつくられたのか－」（平成 28 年度鞠智城・東京シンポジウム），熊本県・熊本県教育委員会 ，明治大学アカデミーホール,2017 年 1 月 28 日）

〔湯浅　幸代〕
233) 湯浅幸代　「源氏物語の空間-建物と調度-」（リバティアカデミー夏季源氏物語公開講座（コーディネータ・講演）），明治大学，2016 年 7 月 23・25 日

（様式１）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

１５　「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

＜「選定時」に付された留意事項＞
社会的な実用性を意識し，社会への還元，情報発信に注力していただきたい。

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞
公開による国際学術会議・シンポジウム・講演会等の諸事業については，ＨＰおよびポスター・チラシによって事前に周知を図り，なおかつ国際シンポジウム『Origins of Oka Masao’s Anthropological Scholarship』については，英文による報告書を刊行した。さらに，明治大学を会場とするだけでなく，熊本県・奈良県・兵庫県・明日香村など各地の自治体との連携事業（公開講演会・シンポジウム）の推進を図った。なお、各種事業は新聞社に事前に情報提供を行った（その結果，当日の取材を経て事後に記事が掲載された事例が２件ある）。

また，人文研究では，「社会的実用性」に関して学問の性格上，困難を伴うことが多い。しかしながら，「全国墨書・国書土器，文字瓦，横断検索データベース」（オンライン検索 試行版）の公開は，単なる社会への還元にとどまらず，各都府県の埋蔵文化財調査研究機関において，出土した墨書土器・文字瓦を釈読する際のツールとして活用されている。採択時の留意事項にあるが，実用性をもった情報発信として，考古学・古代史学界では研究に寄与していると思われる。

（様式1）

プロジェクト番号	S1411022

16　施設・装置・設備・研究費の支出状況（実績概要）　（千円）

年度・区分		支出額	内訳						備考
			法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他（　　）	
平成26年度	施設	0							科研費：4件　16,300千円
	装置	0							
	設備	7,668	3,470	4,198					エネルギー分散型蛍光X線分析装置一式
	研究費	18,579	14,401	4,178					
平成27年度	施設	0							科研費：4件　12,200千円
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	22,207	13,950	8,257					
平成28年度	施設	0							科研費：4件　17,400千円
	装置	0							
	設備	0							
	研究費	25,146	14,491	10,655					
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	7,668	3,470	4,198	0	0	0	0	
	研究費	65,932	42,842	23,090	0	0	0	0	
総計		73,600	46,312	27,288	0	0	0	0	

（様式1）

プロジェクト番号	S1411022

17　施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施　　設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）　（千円）

施　設　の　名　称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
明治大学危機管理研究センター（グローバルフロント）	2012	50㎡	1	15			

※　私学助成による補助事業として行った新増築により、整備前と比較して増加した面積

㎡

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）　（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型　番	台　数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
（研究装置）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
（研究設備）							
エネルギー分散型蛍光X線分析装置一式	2014	OURSTEX100FA型	1	h	6,805	4,198	
				h			
				h			
				h			
				h			
（情報処理関係設備）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

（様式1）

プロジェクト番号	S1411022

18 研究費の支出状況

（千円）

年度	平成 26 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	1,315	消耗品	1,315	書籍、PC関連消耗品
光熱水費				
通信運搬費	23	郵便費・宅配便	23	資料郵送・運搬
印刷製本費	239	資料複写	239	資料複写代
旅費交通費	2,237	国内出張	2,237	国内・海外調査
報酬・委託料	4,412	謝金、業務委託	4,412	資料デジタル化業務委託、講演謝礼
（会合費）	103	会議費	103	研究会議打ち合わせ弁当代・お茶代
計	8,329		8,329	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	747	補助研究員	747	時給950円、年間時間数311時間、実人数3人 時給1200円、年間時間数350時間、実人数3人
教育研究経費支出				
計	747		747	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	3,877	研究機器	3,877	データベースシステム構築（サーバー）
図書	1,635	研究図書	1,635	古書
計	5,512		5,512	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	2,259		2,259	学内3名
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費	1,731	研究支援者・研究推進員	1,731	学外1名
計	3,990		3,990	

年度	平成 27 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	1,026	消耗品	1,026	書籍、PC関連消耗品
光熱水費				
通信運搬費	71	郵便費・宅急便	71	資料郵送・機材運搬
印刷製本費	658	資料複写	658	資料複写代
旅費交通費	3,955	国内出張	3,955	国内調査
報酬・委託料	5,615	謝金、業務委託	5,615	WEB調査業務委託、研究協力謝礼
（賃借料）	102	賃借料	102	拓本展示用品にかかる賃借料
（会合費）	126	会議費	126	研究会議打ち合わせ弁当代・お茶代
（修繕費）	221	修繕費	221	電子顕微鏡点検修理
計	11,774		11,774	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	3,779	研究補助	3,779	時給950円，年間時間数42時間，実人数1人 時給1200円，年間時間数2770時間，実人数13人 時給1300円，年間時間数73時間，実人数1人
教育研究経費支出				
計	3,779		3,779	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	1,188	研究機器	1,188	真空試料室一式
図書	543	研究図書	543	古書
計	1,731		1,731	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	3,170		3,170	学内3名
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費	1,753	研究支援者・研究推進員	1,753	学外3名
計	4,923		4,923	

（様式1）

プロジェクト番号	S1411022

年　度	平成　28　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	471	消耗品	471	書籍、PC関連消耗品
光熱水費				
通信運搬費	145	郵便費・宅急便	145	資料郵送・機材運搬
印刷製本費	972	資料複写	972	資料複写代
旅費交通費	2,043	国内出張	2,043	国内調査
報酬・委託料	8,563	謝金、業務委託	8,563	調査業務委託、研究協力謝礼
（会合費）	65	会議費	65	研究会議打ち合わせ弁当代・お茶代
（修繕費）	113	修繕費	113	ポータブル蛍光X線分析装置修繕
計	12,372		12,372	
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	4,742	研究補助	4,742	時給950円，年間時間数27時間，実人数　1人
				時給1200円，年間時間数2475時間，実人数12人
				時給1250円，年間時間数323時間，実人数1人
				時給1300円，年間時間数892時間，実人数1人
教育研究経費支出				
計	4,742		4,742	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品				
図書	4,349		4,349	
計	4,349		4,349	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	3,277		3,277	学内3名
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費	406	研究支援者	406	学外1名
計	3,683		3,683	